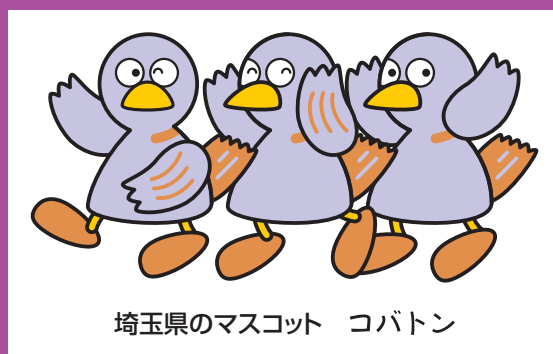


きらめく感性 つくりだす喜び

～ 未来をひらく授業づくり 「深い学び」の探求 ～

— 〈4年次〉 —



埼玉県のマスコット コバトン

きらめく感性 つくりだす喜び ～ 未来をひらく授業づくり 「深い学び」の探求 ～ 〈4年次〉



目 次

挨拶	埼玉県美術教育連盟長	中 川 昇 次	2
	埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事	采 澤 敬	3
	さいたま市教育委員会学校教育部指導1課主任指導主事	廣 田 和 人	3
身体障害者福祉のための児童生徒美術展	特別賞作品より		4
郷土を描く児童生徒美術展	特別賞作品より		8
埼玉県児童生徒美術展中央展（昨年度の受賞作品）		12
造形教育研究大会基調報告		13
造形教育研究大会案内		17
造形教育研究大会案内 Part 1 分科会の提案（第1～第4分科会）		20
記録	令和3年度埼玉県美術教育連盟役員		36
	令和3年度埼玉県美術教育連盟会則		38
	令和3年度事業概要		39
埼玉県美術教育連盟の足跡を顧みて		41

※注意…以下の項目については、経費削減のため42号からカットしました。

各項目については総会等の会議でご報告させていただきます。

埼玉県造形教育研究大会のあゆみ

関東甲信越静地区造形教育研究大会のあゆみ

全国造形教育研究大会のあゆみ

身体障害者福祉のための児童生徒美術展

郷土を描く児童生徒美術展

研究大会、美術展等の開催状況と今後の計画

関東甲信越静地区造形教育研究大会 都道府県別開催状況

市町村別学校数

表紙作品

熊谷市立妻沼東中学校 3年 岡田 涙羽

「 ほほえみをくれた場所 」



子どもたちのために

埼玉県美術教育連盟長 中 川 昇 次

令和3年度を締めくくるに当たり、埼玉県美術教育連盟の各事業に多大なるご尽力をいただいた役員の皆様と諸先生方に深くお礼を申し上げます。

さて、今年度を振り返ってみますと、昨年度に引き続き、コロナ禍においても、子どもたちのために、子どもたちの活躍の場と教員の図工・美術に関する研修の場をできる限り確保し、安全第一で運営を行うという方針の基、事業についての検討を行い、実施をまいりました。関係する皆様、無理難題を切り抜けていただき、ありがとうございました。

「身体障害者福祉のための埼玉県児童生徒美術展覧会」や「郷土を描く児童生徒美術展」には、例年とほぼ変わらぬ多くの作品を出品していただきました。3密を避けた対応を行いながら、例年に近い数の作品に賞を贈ることができました。搬出入や審査などには、多くの先生方にご協力をいただきました。

「造形教育研究大会」は第62回を迎えました。大会を通じて研究の成果が県内各学校の図画工作・美術教育の進展に大きな役割を果たしています。今年度は、南部ブロックの運営のもとで開催し、夏季休業中にオンラインによるリアルタイム配信での実施をしました。半日の日程で、造形大会 part 1（授業実践研究会）のみの内容でしたが、参会者が県内のレベルの高い授業実践の全発表を共有でき、よい研修の機会となりました。また、コロナ禍における研修の在り方、時代に適合した運営と実施の仕方について考えるよい機会となりました。

「埼玉県小・中学校等児童生徒美術展」は、各地区での展示が叶いませんでした。よい作品が多いただけにとっても残念です。

また、美連の行事ではありませんが、9月に開催された「図工・美術の授業展2021」では、県内外の多くの先生方の実践発表が見られました。今後、埼玉県の関プロ実施に向けて、目玉の一つになるものと考えております。さらに多くの皆様のご協力をお願いいたします。

結びに、本連盟の取組に多くのご指導とご協力を賜りました埼玉県教育局、さいたま市教育委員会を始めとする当該地区の教育委員会、主催団体、運営をいただいた皆様に改めて深く感謝を申し上げ、挨拶といたします。



作品から子供の活動の様子を見取る

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課
指導主事 采 澤 敬

埼玉県美術教育連盟「美連No45」が刊行されますことを、心からお喜び申し上げます。貴連盟におかれましては、永年にわたり、埼玉県の造形教育の発展のために真摯に取り組まれ、多大な成果をあげられてきましたことに深く敬意を表します。

さて、小学校に続き中学校においても、今年度から新学習指導要領が全面实施となりました。今回の改訂では、「主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」とともに「学習評価の充実」が大きなポイントとなっています。学習指導要領解説総則編の中で「学習の過程や成果を評価する」と示されているように、図画工作・美術科における学習評価でも、学習の成果である作品だけでなく、それを創り出す学習の過程を一層重視することが大切です。図画工作・美術科の授業では、どうしても学習評価が「作品の評価」に偏りがちになります。しかし、授業中の子供の活動の様子をしっかり見取りながら評価をしてください。また、作品は子供たちの活動の証です。子供たちは作品を表しながら、かけがえのない自分を見出しています。作品の完成度だけを見て評価をするのではなく、完成した作品から、その子の活動の様子、観察や対話で捉えたこと、表現の変化、そこで育まれた資質・能力を見取り、評価へとつなげていただけたらと思います。

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで行われた貴連盟主催の埼玉県造形教育研究大会では、『未来をひらく授業づくり「深い学び」の探求』をテーマに掲げ、これからの授業改善や学習評価の工夫に必要な視点に基づいた実践研究が行われています。本研究が造形教育に携わる先生方にとって授業改善を図る上での指針になって行くことを期待しております。

結びに、貴連盟の実践研究や事業がますます充実、発展されますことを御祈念申し上げまして挨拶いたします。



「資質・能力の育成」

さいたま市教育委員会学校教育部指導1課
主任指導主事 廣 田 和 人

美連会報No45が刊行されますことに、心からお祝い申し上げます。また、貴連盟が組織的な教育研究活動を展開され、多大な成果を挙げておりますことに深く敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、様々な取組が難しい中、「第62回埼玉県造形教育研究大会」が初めてオンラインによって開催されました。子どもたちの図画工作・美術における資質・能力の育成を目指して、具体的な題材を通して協議を深められ、埼玉県の図画工作・美術教育の推進に多大なる成果を上げられました。また、各美術展においても、昨年度の感染症対策を生かしながら無事終了することができ、多くの先生方の御尽力に改めて感謝申し上げます。

さて、中学校において、今年度から学習指導要領が全面实施となりました。美術科においても、資質・能力を育成することの重要性がより一層明確に示されています。作品をつくることが学習の中心ではなく、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することが求められています。子どもたち一人ひとりの思いを大切に、「どのような作品ができたのか」だけでなく「どのような力が身に付いたのか」という視点で、授業改善を進めていただきたいと思います。

結びに、貴連盟の活動の成果を広く共有していただき、埼玉県及びさいたま市の図画工作・美術教育の充実を願うとともに、貴連盟のますますの発展を御祈念申し上げ、あいさついたします。

身体障害者福祉のための児童生徒美術展 特別賞作品より



にげろ！ うしだ！
川島・中山小 1年 久保田陽晴



あさがおジェットコースターでびゅーん！
秩父・影森小 1年 作田結咲椰



しんかんせんにおくれちゃう！
川口・元郷南小 1年 足立 結香



つめたい つめたい じごくのしゃわあ
所沢・牛沼小 1年 今福 実百



どうぶつの国へレッツゴー
羽生・三田ヶ谷小 2年 野中 玲奈



これおわったらプールいこうね
東松山・野本小 2年 近江 胡珀



にじのくにであそんだよ
美里・東見玉小 2年 金子 莉彩



雲はにんじん、にんじんだらけ！
ふじみ野・西小 2年 佐藤 夏帆



巨大なカブトガニ
鴻巣・赤見台第一小 3年 川端 悠真



トウモロコシ号 出発！
岩槻・城北小 3年 小林 樹



ピクフラワーの下でるんらんらんらん
吉川・中曾根小 3年 佐藤 柚奈



ティラノサウルスロケット
小鹿野・両神小 3年 山中 景翔



空飛ぶ野さいとくだもの山
川越・寺尾小 4年 稲本 翔太



世界中の人たちが集まる木
羽生・新郷第一小 4年 森田 ゆに



キツネのたのしみ
本庄・金屋小 4年 新井 夏音



まぼろしの鳥
さいたま・美園北小 4年 杉本 莉子



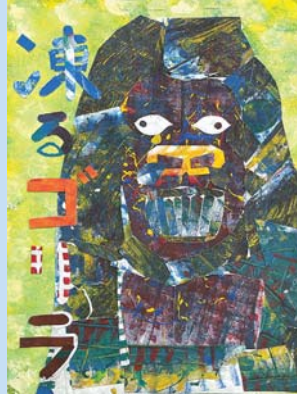
にじの海の風景
川口・青木中央小 5年 伊藤 駿



夜にあるたんぼぼの花火
鴻巣・広田小 5年 岡元 恵乃



海の町と未来トンネル
三郷・彦糸小 5年 山崎 妃花



凍るゴリラ
寄居・男衾小 5年 大場 春馬



ゴミたちのカーニバる！！
ふじみ野・福岡小 5年 岩田 小春



夢の中のクジラと金魚が泳ぐ町
行田・下忍小 6年 春山紗帆香



桜の心臓
寄居・桜沢小 6年 四方田和香



思い出の正門
鴻巣・鴻巣北小 6年 箭内 葵



思い出のつまった体育館

神川・青柳小 6年 飯島 彩七



翔べ 白鳥

朝霞・朝霞第五中 1年 藤原 愛美



綺麗な出しっぱなし

上尾・西中 1年 梅林 陽美



なにを、そんなに見つめているの？
さいたま・大成中 1年 今井 優希



天川を流れる葉

深谷・藤沢中 1年 近藤 駆



3年間よろしくね。

東松山・南中 1年 五十嵐 絆



体育祭をめざして

熊谷・埼玉県立熊谷特別支援学校
中学部 1年 玉城 ターニヤ ベニセ



一歩

松伏・松伏中 1年 菊池 玲



ぐんぐん のびてく

加須・北川辺中 1年 上野サディア



私の日常と興味の向かう先

春日部・江戸川小中 8(中2)年 倉津 冬佳



水族館の私

秩父・尾田蒔中 2年 内田 一璃



想像力を筆にのせて

川島・川島中 2年 小嶋 葵



私の心の中

熊谷・富士見中 2年 渡邊さくら



金魚すくい

蕨・第二中 2年 濱田 風紗



私のバスケットシューズ

鴻巣・鴻巣中 2年 中奥 由夏



春のおしゃべり

埼玉大学教育学部附属中 2年 畑田菜々子



過去と現在の中間地点

行田・南河原中 2年 島村 実里



特等席はマンホール

さいたま・大谷場中 3年 山崎 紗更



まんが家のわたし

小川・東中 3年 上 あすか



「何処までもいける気がした」

秩父・秩父第一中 3年 若林 周音



アメコミと自分

本庄・本庄東中 3年 木村 沙世



絶体絶命

志木・志木第二中 3年 佐々木稀乙



来る日の御伽噺

入間・西武中 3年 浅沼 舞



好きなものと自分

春日部・緑中 3年 有泉 絢野

郷土を描く児童生徒美術展 特別賞作品より



げんごろうとたがめとプール
熊谷・玉井小 1年 谷 峻平



100かいだてのいえ
川口・鳩ヶ谷小 1年 劉 悦輝



とこやさんでかみをきっているところ
鴻巣・赤見台第一小 1年 馬場 玲奈



むしたちとっしょにあそんだよ
東松山・市の川小 1年 海老澤和馬



ぼくのトマトで トマトランドがで上がり
川口・仲町小 2年 林 瀬



みらいの広〜いつるがしま
鶴ヶ島・鶴ヶ島第一小 2年 秋山 爽菜



にじ色のくじゃく
鴻巣・常光小 2年 秋葉 真未



きゅうりタワー
小川・八和田小 2年 武井 諒



さい玉で地下をほったら化石を見つけたよ
毛呂山・泉野小 3年 村田 朱沙



くじらのせんすいかんでしんかいに行こう！
さいたま・桜木小 3年 加藤 愛美



ぼくたち消ぼうくんれんたい
熊谷・吉岡小 3年 中村 優杜



忍城とぼくの家さいたよ、ひまわりの花
行田・桜ヶ丘小 3年 豊福 絃太



レッツゴーヘチマタウン
本庄・本庄西小 4年 オチョア ジェスー



ゆめの中でかがやく大木
新座・新堀小 4年 久保 晃輔



天から光がふりそそぐ木
上尾・鴨川小 4年 石田 瑤華



未来の小鹿野も自然いっぱい!
小鹿野・長若小 4年 新井祐希音



2050年の日本列島
入間・東金子小 5年 吉田 一貴



人の温もりを感じるあたたかい町さいたま
さいたま・大砂土小 5年 田中 琳彩



いろいろなわく星とつながるせん路がある山の町
さいたま・三室小 5年 丸山晃史郎



科学のまち三郷
三郷・前間小 5年 孫 了凡



大切な思い出の放送室
行田・下忍小 6年 増田 蒼空



キラメク下駄箱
さいたま・与野西北小 6年 渡邊 歳文



浮かぶ未来の埼玉
三郷・早稲田小 6年 石塚 優爽



休み時間の校庭
本庄・旭小 6年 関口 直頼



燃ゆる、石上神社
坂戸・若宮中 1年 乾 那実音



のぞく青空 市役所と
本庄・本庄南中 1年 南原 心咲



そびえ立つセメント工場
秩父・秩父第一中 1年 田嶋 稟



帰り道
越谷・北中 1年 渡邊 優里



稲荷木伊奈利神社
熊谷・富士見中 1年 榎本 ソラ



光の中の羽尾神社
滑川・滑川中 1年 井上 瑠莉



夏の高架下
東松山・東中 2年 米塚 純礼



鴨川の土手
さいたま・大久保中 1年 田中 然



夕暮れ時の南桜井
春日部・江戸川小中 2年 倉津 冬佳



夏の思い出の一部
川口・西中 2年 榎田沙緒里



夏の鴻神社
鴻巣・鴻巣中 2年 松田 花凜



川越の雨
川越・大東中 2年 山下 凜空



武甲山

秩父・尾田蒔中 2年 内田 一璃



思い出の通学路

本庄・児玉中 2年 新井 芹菜



持田駅

行田・西中 2年 藤井 紗姫



甚暑と二人きり

三郷・早稲田中 2年 笠嶋 知優



雨後の日

新座・第二中 3年 山本のどか



裏門と木漏れ日

深谷・上柴中 3年 用皆 椿華



あの日見た木漏れ日の中で

伊奈・小針中 3年 池田桜音羽



太田ホルモン

小川・樺台中 3年 小澤 七美



秩父駅

秩父・高篠中 3年 黒沢 果穂



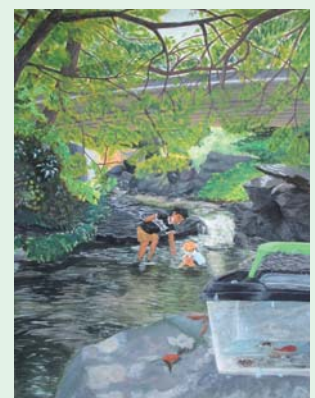
五百羅漢

寄居・寄居中 3年 大野古真知



夕日とおばあちゃんの背中

上里・上里北中 3年 石井 希和



さわガニ獲り

加須・加須東中 3年 川島 沙月

第61回埼玉県小・中学校等児童生徒美術展 第13回中央展覧会

県内10地区の審査会で特に優秀だった平面作品100点、立体作品100点を集めました。

埼玉県知事賞

小学校低学年の部



なんでもたべるロボット
入間市立扇小学校 第1学年 嶋崎 遥音

小学校高学年の部



たくさんのつこの花
鶴ヶ島市立新町小学校 第4学年 原田 あずさ

中学校の部



神の遊び
川越市立東中学校 第2学年 赤堀 晶

埼玉県議会議長賞

小学校低学年の部



メカブトムシ
川島町立伊草小学校 第3学年 行方 風翔

小学校高学年の部



フラワーノート～書くと浮き出る私だけの花～
熊谷市立玉井小学校 第6学年 小坂橋 柚帆

中学校の部



姉妹
朝霞市立朝霞第五中学校 第2学年 佐藤 桃香

埼玉県教育委員会教育長賞

小学校低学年の部



レインボーの木にすむりすさん
秩父市立荒川東小学校 第3学年 三上 莉瑚

小学校高学年の部



パン屋へようこそ!!
嵐山町立大七郷小学校 第6学年 福島 大稀

中学校の部



My sea
東松山市立東中学校 第3学年 中村 愛美

さいたま市教育委員会教育長賞

小学校低学年の部



歌って歌ってステージ
さいたま市立城南小学校 第2学年 渡邊夢咲

小学校高学年の部



機械じかけの蝶の町
越谷市立千間台小学校 第5学年 宇留田 究

中学校の部



終わらない夢中
戸田市立戸田中学校 第3学年 村山 未美

3つの追究観点

- ① 受け止めよう 子どもの心
- ② 育てよう 確かな力
- ③ 深めよう 生き生き授業

※「主体的・対話的で深い学び」の視点

追究観点3 深めよう 生き生き授業

- ☆ 子どもたちの実態に適した授業、子どもたちが生き生きと活動できる授業を構想すること
- ☆ 「主体的・対話的で深い学び」という視点も生かしながら、授業づくりのための手立てを豊かにすること

追究観点2 育てよう 確かな力

- ☆ 「確かな力」を生きて働く力としてとらえ、育てたい力を具体的に明らかにし、学びを深めていくこと
- ☆ 造形的な見方や考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質や能力を育成すること

追究観点1 受け止めよう 子どもの心

- ☆ 子どもたち一人一人の心（感性、表現の思いなど）をしつかりと受け止め、励まし、豊かな心を培うこと
- ☆ 自分の心を見つめ、他者と心を通わせ合うことを大切にすること

県美連研究テーマ 令和2年度（平成30年度～）

きらめく感性 つくりだす喜び

～ 未来をひらく授業づくり 「深い学び」の探求 ～

課題3
造形教育研究大会を結節点にして、年間の活動のあり方、進め方を整えること

課題2
次代の担い手を育てるとともに、図工・美術教育のさらなる拡充と浸透を図ること

課題1
これまでの研究成果を継承、発展させ、新教育課程も見据えて、「深い学び」を探求すること

県美連研究部

埼玉県美術教育連盟
造形教育研究大会

平成30年度～



<目的と趣旨>

県美連の研究テーマ(大会テーマ)、及び、**追究観点①～③**を受け、**各分科会の研究の視点**にそって提案される各地区の**授業実践研究**の事例をもとに、**研究協議**を行うことを通して、**児童生徒理解を深め、育まれる力を検証**するとともに、**豊かな授業づくりのための理念や手立てを学び合い、広めること**で、**図工・美術教育のさらなる充実を図る**。

Part1 (1日目)
授業実践研究会

研究の視点

※ 各地区(会場地区を除く)の
小・中学校の実践を通して

1 素材との対話
(豊かな素材体験の実践例)

2 自己との対話
(新たな自分と出会う実践例)

3 生活との対話
(生活を豊かにする実践例)

4 作品との対話
(豊かな感性を育む実践例)



大会テーマ(県美連研究テーマ)
きらめく感性 作りだす喜び
～ 未来をひらく授業づくり「深い学び」の探求 ～

追究観点①
受け止めよう子どもの心

追究観点③
深めよう 生き生き授業

追究観点②
育てよう 確かな力

Part2 (2日目)
創造体験研修会

題材開発の視点

A 造形遊び

B 絵に表す

C 立体に表す

D 生活に生かす

E 鑑賞活動

※ それぞれのコースを各地区で分担し、創意を生かして具体的なテーマや内容を企画
(3年間を通した継続した取組に)



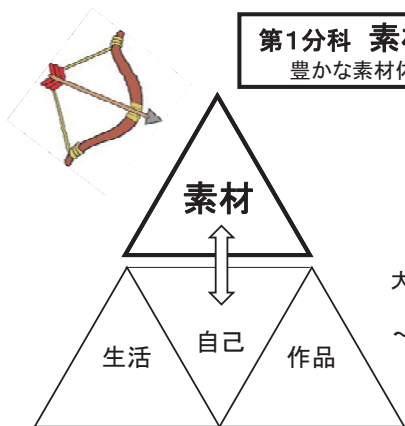
<目的と趣旨>

県美連の研究テーマ(大会テーマ)、及び、**追究観点①～③**を受け、**各コースの題材設定の視点**にそって提案される**ワークショップ(創造的・開発的な実技研修)**をもとに、**自らが創造的な体験**をすることを通して、**児童生徒の心や育まれる力を実感**するとともに、**豊かな題材開発と授業づくりのための実践力を培う**。

Part1 分科会のイメージ

第1分科 素材との対話

豊かな素材体験の実践例



キーワード

材料, 用具, 場, 子ども同士のかかわり, 材料の特徴(よさや可能性, 欠点等)
諸感覚, 身体感覚, 実感的な理解
...

大会テーマ(研究テーマ)

きらめく感性 つくだす喜び

～未来をひらく授業づくり「深い学び」の探求～

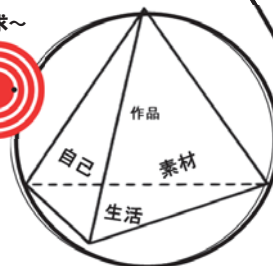
3つの追究観点

①受け止めよう子どもの心

②育てよう確かな力

③深めよう生き生き授業

「主体的・対話的で深い学び」の視点



表現及び鑑賞の活動

第2分科 自己との対話

新たな自分と出会う実践例



キーワード

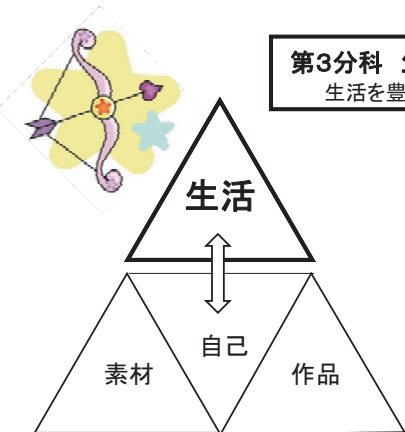
思い, 願い, 憧れ, 夢, 選択,
自己決定, 自己肯定感, 自信,
自尊感情, 自己愛, 自分らしさ,
自分探し, 自分づくり, 新たな自
分, あるがままの自分, 個性,
主題を練る, 価値意識, 身体, ...

対話について

対象との対話, 他者との対話, 自分自身との対話といった対話のプロセスを通じて学習は成り立っていく。

第3分科 生活との対話

生活を豊かにする実践例

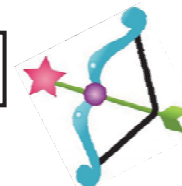


キーワード

日常生活, 家庭生活, 学校生活,
社会生活, デザイン, 工芸, 地域,
行事, 伝統, 生活世界, 生活空間,
生活文化, 生活感情, 現実世界,
家族, 友人, 遊ぶ, 飾る, 装う,
衣食住, 社会問題, メッセージ,
生命, 人生, ...

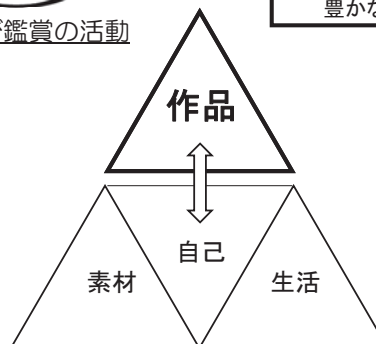
第4分科 作品との対話

豊かな感性を育む実践例



キーワード

他者との対話, 解釈, 交流,
対話型鑑賞, 造形言語,
造形感覚, 造形美術文化,
表現と鑑賞の一体化,
美術館との連携, 専門家, 実物
見えないものとの交信,
新たな世界との出会い, ...



きらめく感性 つくりだす喜び 令和2年度(平成30年度～)
 ～未来をひらく授業づくり 「深い学び」の探求～

県美連研究部

追究観点① 受け止めよう 子どもの心

- 感性を働かせながら・感性を豊かにし
 - ・子ども自身の感覚、感じ方、ものの見方、表現の思いなどを重視する指導を意識すること
 - ・生活体験、学習体験から滲み出てくるもの、湧き出てくるもの
- つくりだす喜びを味わう・創造活動の喜びを味わう
 - ・創造のエネルギー、新しい意味や価値の創造、自己肯定感
 - ・主体性と対話(素材との～、自己との～、生活との～、作品との～)
- 美術を愛好する心情を育て
- 豊かな情操を養う
 - ・生きる力、人格の形成、人間性、心豊かな生活



創造のエネルギー→
 “心”が“力”を支え
 “力”が“心”を育む
 ←生きる力となる資質や能力

追究観点② 育てよう 確かな力

- 造形的な創造活動の基礎的な能力を培う・美術の基礎的な能力を伸ばし
- 美術文化についての理解を深め
 - ・(目標・評価、内容)4つの観点→3つの柱
 - 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」
 - ・〔共通事項〕(形、色など、イメージ)
 - ・目の前の子どもたちの実態に応じて
 - ・授業のねらいを具体化・明確化して
 - ・小中9年間の、つながり、積み重ねを大切に
 - ・教師の意図を超える子どもの姿も→次へのステップ



追究観点③ 深めよう 生き生き授業

「主体的・対話的で深い学び」という視点も生かしながら

- ポイント1 子どもの実態を把握し、適切な題材設定を
- ポイント2 まず、教師自身が創造体験を
- ポイント3 美術文化に目を向け、題材の魅力を生かして
- ポイント4 ねらい(=育てたい力)の具体化・明確化を
- ポイント5 題材名の工夫、題材渡し、“演出”の工夫を
- ポイント6 主題を深める過程を重視し、子どもを主体に
- ポイント7 自己選択、試行錯誤など、自由度の保障を
- ポイント8 材料や用具を吟味し、場づくりの工夫して

3つの追究観点の関連性とエッセンス

- ポイント9 友人との共同や交流、人との出会いを大切に
- ポイント10 「表現と鑑賞の一体化」という視点をもって
- ポイント11 体験、本物との出会い、実感的な理解を大切に
- ポイント12 “言葉かけ”や“支援”に力を傾けて
- ポイント13 様々な方法で、子どもの姿や心の動きをとらえて
- ポイント14 参考資料、ワークシートなどの工夫を
- ポイント15 ICT(映像機器、情報機器等)の効果的な活用を。
- ポイント16 学級・学年・学校づくり、家庭・地域との連携

埼玉県教育委員会教育長 様
さいたま市教育委員会教育長 様
各教育事務所長 様
各市町村教育長 様
各市町村小・中・特別支援学校長 様

令和3年6月吉日

埼玉県美術教育連盟長
中川 昇次

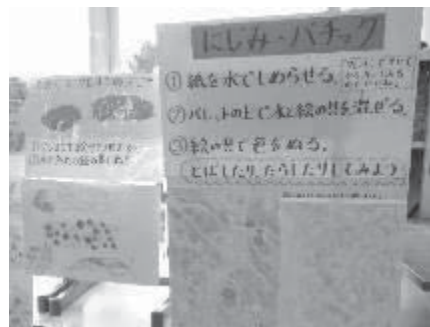
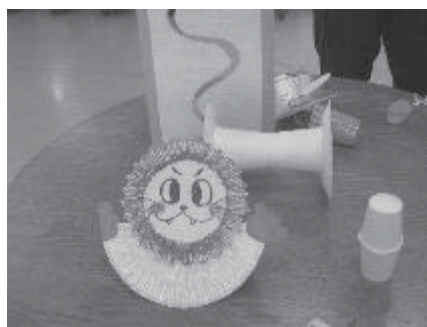
第62回埼玉県造形教育研究大会

大会テーマ

きらめく感性 つくりだす喜び

～未来をひらく授業づくり 「深い学び」の探求～

… 3年次…



令和3年8月3日(火) 13:00～16:30

Part1 授業実践研究

会場 オンライン開催 (ZOOM)

参加費 無料

主催 埼玉県美術教育連盟

後援 埼玉県教育委員会

さいたま市教育委員会

教義指第 321 号令和3年6月10日

教指1第 1972 号令和3年6月23日

大会テーマ『きらめく感性 つくりだす喜び』～未来をひらく授業づくり「深い学び」の探求～

私たちは、子どもたちがつくりだす喜びにあふれる授業を実現したいと切に願って研究しています。どうしたら子どもたちが主体的に意欲をもって自らの世界をつくりだしていけるのでしょうか。図画工作や美術の時間は、子どもたちの感性がきらめき輝きだす瞬間を見せてくれます。今大会では、子どもたちの喜びの声や輝く顔を実現するための授業提案が企画されています。皆様方の図画工作・美術の授業に少しでも役立てていただけますことを願って大会テーマを設定いたしました。

令和3年8月3日(火) Part1 授業実践研究

受付 12:45～13:00 開会行事 13:00～13:05

分科会	時程	テーマ	担当者	
第1分科会 【素材との対話】 豊かな素材体験の 実践例	13:05 ～ 13:30	くしゃくしゃにして、 紙のさわり心地から発想を広げよう ～ギュッとしたい わたしの「お友だち」～ (小2)	提案者 さいたま・中尾小 臼井 理恵	指導者 さいたま・大宮西小 丹後 雅博
	13:30 ～ 13:55	「観る」力を育てる 地域に密着した制作活動 奇妙な動物園 ～観てひらめき 触れて感じる～ (中1)	提案者 秩父・秩父第二中 赤岩 菜美	指導者 熊谷・玉井小 大谷 裕紀
第2分科会 【自己との対話】 心の育ちをみとる 実践例	13:55 ～ 14:20	自分をみつめ、自分をかたる 表現活動 ～私を連れ出す 世界に一つだけの靴～ (中3)	提案者 東松山・白山中 酒井 真紀	指導者 川越・大東中 田中 晃
	14:20 ～ 14:45	自己と作品の変容を楽しむ表現活動 ～1ページ絵本をつくろう!～ (小5)	提案者 蓮田・蓮田中央小 桑原 友希	指導者 加須・三俣小 中島 高広
第3分科会 【生活との対話】 生活を豊かにする 実践例	14:45 ～ 15:10	“人とのつながり” 地域を活性化する表現活動 ～街にとけこめ! かきたオブジェ～ (小4)	提案者 川越・大東西小 木藤 龍一	指導者 所沢・北中小 鈴木 勢津子
	15:10 ～ 15:35	「伝えるアート つながるアート」 アートでこころ豊かな環境を ～POPではじまる 伝える楽しさ～ (中1)	提案者 春日部・大沼中 谷 弘美	指導者 越谷・千間台中 小林 昭生
第4分科会 【作品との対話】 豊かな感性を育む 実践例	15:35 ～ 16:00	SNS環境を模した 相互の作品鑑賞活動 ～高見えグラム～ (中1)	提案者 さいたま・旭野中 高見 藍	指導者 さいたま・城南中 金子 宜史
	16:00 ～ 16:25	創作意欲を高める鑑賞活動 ～いつでもどこでもアート～ (小2)	提案者 熊谷・佐谷田小 嶋田 弥栄	指導者 熊谷・佐谷田小 木村 浩
			司会者 熊谷・玉井小 小林 麻衣	記録者 熊谷・中条小 竹内 彩

閉会行事 16:25～16:30

参加の流れ

※出張等の当日のサービスについては、所属長に御相談ください。

- 1 下のQRコードを読み込む。
- 2 「申し込みフォーム」に氏名・所属・メールアドレス等を入力する。
- 3 入力終了したら「送信」を押す。
- 4 登録したメールアドレスに ZOOM の ID とパスコードが自動返信で送られてくる。
- 5 以下の手順に沿って参加する。

ZOOM ミーティングに参加する方法 ※ZOOM をインストールしていなくても参加できます。
①インターネットで「Zoom」を検索し、「Zoom ミーティング」をクリックする。
②「ミーティングに参加」をクリックし、送られてきた ID を入力し、「参加」をクリックする。
③名前(名前・所属)を入力し、「参加」をクリックする。
④送られてきたパスコードを入力し、「参加」をクリックする。
⑤画面左下の「マイク」と「ビデオ」をオフにする。

- 6 閉会行事において、チャット欄にアンケートURLが貼り付けられる。そのURLをクリックし、「アンケートフォーム」に入力して、「送信」を押す。

令和3年度 第62回埼玉県造形教育研究大会
Part1 授業実践研究

申し込みはこちらから
(googleform)



申し込み締め切り 7月21日(水)

(定員200名)

《お問い合わせ先》

埼玉大学教育学部附属小学校

埼玉県美術教育連盟事務局 代表 坂井 貴文

メール takahumisakai@mail.saitama-u.ac.jp

第1分科会	『素材との対話』
小学校2年生 題材名「くしゃくしゃにして、 紙の触り心地から発想を広げよう ～ギュッとしたいわたしの『お友だち』～」	

1 趣旨の説明

本題材は、揉むと柔らかくなる紙の特性を生かしてギュッと抱きしめたいくなる立体作品をつくる学習活動である。児童が「素材との対話」をするために3つの手立てを設定した。

- ①様々な種類の紙を用意し、用途の違う紙によって質感が異なることに気付けるようにする。
- ②体全体を使ってくしゃくしゃにすることによって、紙は柔らかくなるなど質感を変えることができることを知る機会にする。
- ③ギュッとしたい「お友だち」をつくるという提案をし、自分が「気持ちいい」と感じる紙の質感を求めて活動できるようにする。

11種類の紙を用意することで、用途の違う紙によって感触が変わる面白さを感じたり、全判のクラフト紙を使うことで紙をくしゃくしゃにする時に体全体を使って活動したりすることを目指した。作品である「お友だち」の中にはシュレッダーした紙を使い、児童一人ひとりが入れる量を調節しながら、自分の気持ちいいと感じる抱き心地を求めてつくり上げられるようにした。

日頃、当たり前のように使っている紙という素材に向き合い、新たな知識や見方ができるようになる姿を目指した。

2 素材・材料・用具の紹介

児童に紹介した紙は、模造紙、色画用紙、クラフト紙、障子紙、新聞紙、板目紙、半紙、ティッシュ、包装紙、お花紙、薄葉紙の11種類。「お友だち」の台紙として全判のクラフト紙を配付した。クラフト紙を袋状にする際には、接着剤で貼りつけたり、はさみで切り、自分のイメージした形に変えたりした。中にはシュレッダーした紙や切り取ったクラフト紙の縁の余白などを入れている。土台に使わなかったお花紙や色画用紙は、布、リ

ボンなどととも飾りにしていた。

3 活動内容

追究観点① 受け止めよう 子どもの心

素材の紙を比べ合うことで、一人ひとりの「気持ちいい」という感覚や、こんな「お友だち」にしたいと

いうイメージを受け止め、それぞれの感性を養う。



追究観点② 育てよう 確かな力

多くの種類の紙に触れることで紙のもつ特性を知る。また、体全体を使った活動で感覚を研ぎ澄ませたりすることで、素材である紙に対する新たな見方・考え方を身に付ける。

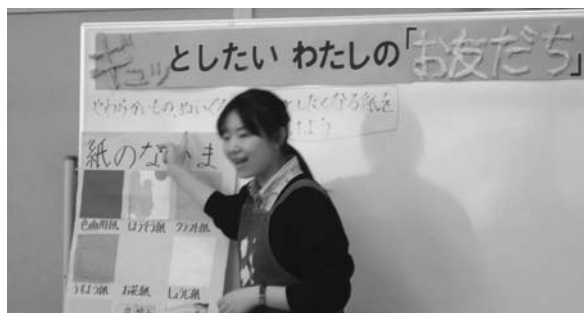
追究観点③ 深めよう 生き生き授業

子どもたちが素材である紙を最大限に生かせるように色々な方法でくしゃくしゃにしている活動の様子を紹介し合い対話することでイメージを深めていた。一生懸命柔らかくした紙にすることで自分だけの特別な「お友だち」という作品に愛着をもたせる。

4 活動過程

(1) 様々な紙の種類やギュッとしたくなる「お友だち」をつくることを知る。

・紙には多くの種類があること。【手立て①】



- ・ギュッとしたくなるものは、気持ちいいと感じるものであること。【手立て③】

(2) 様々な紙を実際に揉んでみる。

- ・同じ紙でも用途によって感触が異なること。
- ・揉むと柔らかくなること。【手立て②】



(3) クラフト紙を使って「お友だち」の土台をつくる。

- ・「気持ちよさ」の探求
(紙自体の柔らかさ、抱き心地)
- ・イメージに合わせた袋づくりと飾りつけ



5 まとめ

用途によって質感が変わる紙という素材と触れ合うことで、子どもたちは主体的に試し方や感覚を発見していくことができた。振り返りでは、「紙は揉むと柔らかくなることが分かった」という2つ目の手立てを感想にも

つ児童が多かった。さらに、そもそも紙を抱いたことがないからギュッとする「お友だち」をつくるのが初めは想像できていなかったが、紙の特性を知れば知るほど生き生きと素材と向き合う児童の変容が見られた。これまで当たり前のように使っていた紙に対する新たな見方や知識を得たことで、これからの生活や作品づくりに生かしていけるであろう。また、自分の気持ちいいと感じる柔らかさを求めて作品づくりをしたことは、「お友だち」への愛着と思いが強くなった。自分のイメージを表現できる喜びも味わうことができた学習活動にもなった。

6 指導講評

(さいたま市立大宮西小学校 校長 丹後雅博)

- ・素材との対話において、授業では豊かな素材体験を通して、資質・能力を育んだ、その結果作品が出来上がることが必要である。今回の提案では、「紙を揉むと感触が変わる。そこを子どもたちに学ばせたい。」という思いがよく伝わってきた。

- ・造形大会の3つの追究観点について

①子どもの思いを受け止めよう

紙に対する子どもの思いを受け止められるよう、多くの紙が用意されていた。少しでも多くの紙と触れ合わせようという提案者の思いが感じられた。

②確かな力の育成

学習指導要領A表現(2)において、身近な素材である紙を用いて、手や体を十分に使うことができていた。工夫して表すことに関しては、紙を揉むと柔らかくなることを生かして、思わずギュッとしたくなる形を具体的にイメージさせる力を育むことができていた。

③深めよう生き生きした授業

子どもたちが話し合い、活動の中で作品の形がどんどん変わっていったことから、思いやイメージを広げていたことがわかった。

- ・課題点にあった、「他の紙を用意しておく」ことについては、今回のように様々な紙の感触だけ押さえた上で、クラフト紙に絞って作品づくりをしようという取り組み方でよかった。
- ・発表の最後の実際の作品提示にあったように、つくった作品(お友だち)の着せ替えをする際、和紙をそのまま貼りつけるのではなく、柔らかくなるまで揉んでつけた様子から、その児童には紙は揉むことによって柔らかくなり、違った風合いになることを理解し自分の作品に生かしていく能力が身に付いていた。
- ・以上のことから今回の提案は、子どもたちの「素材との対話」が十分にできていた大変よい授業だった。

提案者 臼井 理恵 (さいたま・中尾小)

記録者 本多 昌子 (さいたま・栄和小)

第1分科会	『素材との対話』
中学校1年生 題材名 「 奇妙な動物園 」 ～観て味わい、触れて感じる～	

1 趣旨の説明

本題材では普段目にしても手に取らない「植物」や「石」、「身近にある自然」を素材として捉え、いろいろな材料に触れて生まれる表現や形を楽しみ、作り手の考え方によって表現を変える過程を通して、造形遊びをする楽しさを味わわせたいと考えた。実際に触れて、その材料と向き合う中で、身近にあるものの美しさや面白さに気づき、つくりだす楽しさや喜びを感じながら活動していく。

生徒たちに、量感、質感、色、形などに対する感性を働かせながら取り組ませたいと考えた。また、友達と思いを伝え合いながら活動し、お互いの考えを共有することで個々につくりあげていく活動とは異なる楽しさにも気付かせるようにした。

2 素材・材料・用具の紹介

実際に観たり触れたりしながら、材料を選ぶことができるよう、学校裏の押堀川に「木」「石」「植物」などの素材集めに行った。

可能な限りの種類の道具を用意し、試行錯誤しながらつくる過程を通して、自分のイメージに近づけられるようにした。

のり、木工用接着剤、釘、グルーガン
はさみ、カッター
のこぎり（両刃のこぎり・胴付きのこ）糸のこ
紙やすり、棒やすり、ベルトサンダー

また、活動中でもすぐに使用方法が確認できるよう、道具の扱い方が載った小冊子を配った。

3 活動内容

追究観点① 受け止めよう 子どもの心

「受け止めよう子どもの心」では、物をつくる苦手意識にとらわれないよう「シルエット」でものを観るということを教える。

追究観点② 育てよう 確かな力

- ・道具の適切な使い方を理解させる。
- ・素材に合った道具を選び、効率よく削ったり、切断したり、接着したりしながら、工夫して自分のイメージに近づけていく。

追究観点③ 深めよう 生き生き授業

自ら素材に触れて材料集めが行える場所に連れ出し、意欲的に制作できる環境を用意する。また、触れた「感触」を含めて制作を行わせることで作品への愛着をもたせ、物をつくり上げる楽しさに気付かせる。

4 活動過程

- (1) 題材について知り、身の回りにある日用品、落ちていた石、偶然拾った枝に触りながら「色」「形」「イメージ」に注目し、何がつくれるかを考える。

- ・様々な材料に触れる。
- ・グループ活動を行う。
- ・安全面の約束をする。

- ㊟ずかに
- ㊟びのびと
- ㊟んかんに



- (2) 材料集めを通して、秩父の自然を見直す。時間に制限を設けて、限られた時間を有意義に使えるように図る。

- ・安全面の約束を確認する。



- (3) 具体的な制作方法を知り、素材を活かすデザインを考え、制作に入る。また、道具の扱い方が載った冊子を配る。

- ・道具の扱い方の冊子を配布する。
- ・制作方法を説明する。



- (4) 技法指導を行い、安全に配慮しながら、作品制作を行う。
- ・ 道具や技法指導をする。
 - ・ 作品制作をする。



- (5) それぞれの素材やイメージにそった作品になるよう技法指導を行い、作品を完成させる。
- ・ 道具や技法指導をする。
 - ・ 作品制作をする。

- (6) 三つのキーワード「色」「感触」「シルエット」を確認するため、作品に触れ合いながらの鑑賞会を行う。壊れやすい作品は作者がそばで説明しながら行った。
- ・ 鑑賞会を行う。
 - ・ 授業の振り返りを行う。



5 まとめ

身近にある自然を材料にすることで、美術に苦手意識を感じる生徒も率先して制作に打ち込む姿が見られた。同じような素材を使う者同士でアドバイスを出し合い、特に接着場面では、教師の力を借りずに主体的な活動をしていた。

鑑賞会では、自ら素材に触れた感覚を周囲と共有することで、発表者も自信をもって発表する姿が見られた。聞く側も自分とは違う発想に耳を傾け、共感する姿が見られた。

この課題を通して、美術が好きな生徒にとっても苦手な生徒にとっても、一人一人がより楽しく主体的に学べる環境をいかにしてつくっていくかが今後大きな課題になっていくと感じた。

美術を愛好する生徒を育てていくためにはどんな言葉がけが有効か、またどんな準備をしておくとういのか等を、より多くの先生方と情報を交換しながら学んでいきたい。

6 指導講評

(熊谷市玉井小学校 校長 大谷裕紀)

- ・ 私たちは常に色・形・デザイン・光・素材等に囲まれている。それらの素材にいかにつれ、どう向き合い考えさせていくかが、美術の指導においては重要である。
- ・ 秩父第二中学校の周りには武甲山、芝桜、羊山、押堀川等があり、生徒たちは豊かな自然に囲まれて生活している。本単元は、身近にある豊富な自然の素材を活用しているという点で、とてもよい課題となった。
- ・ 生徒たちが身近な自然に触れながら、イメージを膨らませる活動が十分にできている。自ら選んだ素材を、適切な道具や方法を使って制作することがとても大切であり、よくできていた。
- ・ 週に一度しかない教科であるが、時間を有効に使い、教室の外に出て目の前の自然に触れながら活動するというところに、特別感を感じることができた。題材を通じて合い言葉「し・の・び」 - 静かに・伸び伸びと・敏感に - を使い、校外での活動を安全で有効なものにしている。
- ・ 生徒たちは接着に苦勞をしたように思われる。木工用接着剤や多用途接着剤、釘やビス等の他にも様々な結合方法がある。例えば天然素材を使った麻糸や麻紐、しゅろ縄、ヤシの繊維でつくった杉テープ等は木の素材感を活かすことができる。釣り糸やテグスを使うと、目立ちにくい上に素材のよさを活かすことができる。園芸用品や結束バンド、ラップ等も有効である。様々な道具を組み合わせることによって、生徒たちのイメージをさらに現実的なものに近づけることができたと考えられる。
- ・ 生徒たちは本題材を通して造形的な見方・考え方を十分に働かせ、多様な価値観を形成することができていたと思われる。

提案者 赤岩 菜美 (秩父・秩父第二中)

記録者 中村 直史 (秩父・秩父第一中)

第2分科会	『自己との対話』
小学校5年生 題材名「1ページ絵本をつくろう！」	

1 趣旨の説明

本題材の多色刷りの木版画は、白黒の木版画とは違い、「彫りとともに刷りが楽しめて、意外性のある作品ができあがる。重色効果があり、深みのある色合いが出る」表現活動である。計画性を必要とし、技能を高めつつも、意外性を生かしたおもしろい作品づくりが期待できる。内容既習の物語教材から表したいものを選択し、想像をふくらませて物語の場面絵を彫り進み版画で表した。

2 素材・材料・用具の紹介

教師：1～5年生までの国語の教科書、絵本、版木、版画インキ、ローラー、インキ練り板、バレン、版画用紙

児童：彫刻刀

3 活動内容

追究観点① 「受け止めよう 子どもの心」

高学年期は、対象を正確にかきたい、技能を高めたいという意欲と発想することの難しさを感じる時期である。そこで、「技能」と「イメージを具体的にもつ」ことができるような「版画」を題材にする。

追究観点② 「育てよう 確かな力」

トレーシングペーパーを重ねてステープラー止めたものに色鉛筆で色をぬって、何回目で何色をつけるのか、重なるとどのように変化するのか、計画性をもって取り組めるようにする。また、彫刻刀やローラーは、既習事項だが、技能の向上と安全のために意識して指導する。

追究観点③ 「深めよう 生き生き授業」

作品、ポートフォリオ、製作を終えての感想を製本テープでとじ、絵本のようにする。その際、台紙を選ぶポイントを指導する。作品に使われている色を選ぶ「類似」は、まとまった作品になる。

補色に近い色を選ぶ「対比」は、それぞれを引き立てることにつながる。

また、鑑賞のまとめの際には、作品をテレビに映して共有する。「再認識、～さんの言ったように」「再発見、～さんの作品をよく見てみると」という2つのポイントに留意する。

最後に葛飾北斎の作品を取り上げ、自分たちの製作と日本文化とのかかわりに気付けるようにする。

4 活動過程

仮説①

既習の物語教材から表したいものを選択することで、これまでの自己の経験を想起しながら作り出す喜びを味わうことができるだろう。

仮説②

彫り・刷りを繰り返していくことで、思いを作品に反映させたり、作品からイメージをふくらませたりするなど、相互の関わりをもたせることができるだろう。

第1時 題材について知る。

○1つの物語にも表現の仕方がいろいろあることを知る。

○彫り進み版画について知る。

(NHK for school「きみなら何つくる?」)

○既習の教材から、表したい物語とその場面を決める。

第2・3時 アイデアスケッチをもとに、模型をつくる。

○宿題で考えてきたアイデアスケッチの中から1つ選び、トレーシングペーパーを使って刷りの構想を練る。



第4・5時 製作方法を理解する。

○彫刻刀の使い方を確認する。

○刷り方を理解する。

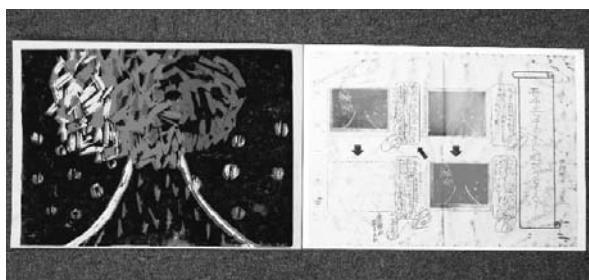
第6～12時 製作を進める。

○自分の計画に沿って製作する。

○刷り重ねるごとに、ワークシートに記録していく。

第13時 作品を仕上げる。

○版画作品、ワークシート、題名を台紙に貼り、絵本の形式にまとめる。



第14時 作品を見合う。

○作品を友達と見合う。

5 まとめ

仮説に対して、「技能と発想、構想のバランスを考えた題材設定」「児童間のかかわり」「ポートフォリオでの製作経過の記録」が効果的だったと感じる。

課題は、「ポートフォリオの記録の仕方」「ほかの題材での経過記録の仕方」である。最終的な作品につながるものだけでなく、ちがう色で刷ってみた作品や版木も写真として記録していくと違った発見になると思う。

また、他の題材での経過記録をしていくことにも意義があると思う。題材ごとに写真を撮ってコメントを付けながら、記録をすると、子どもたちが自己と対話した記録にもなるし、評価にもつながる。発達段階に適応させながら、自己と作品をどう関われるようにするか、どう自己を深められるようにするかを探求していきたい。

提案者 桑原 友希 (蓮田・蓮田中央小)

記録者 岡安 美沙枝 (加須・加須小)

6 指導講評

(加須市立三俣小学校 校長 中島 高広)

- ・「彫っては刷る」を繰り返すこの題材は、児童にとって自己決定の連続と言ってもいい活動である。刷り上がりを評価して次の「彫り」を決め、使うインクの色を選んで、また刷る。その刷り上がりから、再び次の彫りと色を決めていく。どの子どもどう刷り上がるか不安を抱えながら、どこをどのぐらい彫ればイメージに近づくのか、局面局面で自己決定し進めていく活動である。
- ・何回刷るのか、つまりゴールをどこに置くのかも自分で決めなければならない。色のバリエーションを変えて何枚か刷ったものがあれば、時間を遡って自分のゴールを探す。
- ・トレーシングペーパーを活用した模型づくりにより、製作イメージが構築されている。彫り進み版画は、仕上がりがイメージしにくいために偶然性や意外性に頼り過ぎ、計画性に乏しい深まりのない活動にならないように留意することが必要である。
- ・作品と自己の変容を可視化するための「ポートフォリオ」による連続的な製作の振り返りがされている。造形活動は「行きつ戻りつ」と言うが、進み過ぎると戻ることが難しい版画表現では、慎重な自己評価と製作の見通しが大切である。
- ・過去に読んだ国語の物語をテーマにし、友達とイメージを共有しやすくしている。条件を与えたりテーマを制限したりすることは、イメージを狭める危険もあるが、一方で、子どもに表現の工夫を要求し、一定の枠組みの中で、むしろのびのびと自由に活動することにもつながる。既習の物語を扱うことで、お互いの製作意図の理解を助け、友達の表現と自分の表現を対比しやすくしている。
- ・現在「GIGAスクール構想」により、一人一台端末が実現してきているので、一人一人が製作過程を手軽にデータとして記録していくことが可能になれば、ポートフォリオの形も大きく変わるかもしれない。

第2分科会	『自己との対話』
中学校3年生 題材名「私を連れ出す、 世界に一つだけの靴」 ～自分を見つめ、自分を語る～	

1 趣旨の説明

本題材は、主に紙を使って自分のオリジナルデザインの靴を造形表現するものである。

今の自分を見つめ、主題を設定し、作品制作を進める中で、生まれた形の中から見付かる新たな自分と出会い、表現活動全体を通して自己との対話を深めていく題材である。生徒が込めたい思いや願いは何かを大切にできるよう、「対話」のステップを踏み、作品主題を明確にもたせることで、最後まで意欲をもって作品制作に取り組むことができるようにした。生徒一人一人が表現方法を選択し、制作できるように、参考作品の展示から発想、材料のヒントを得られるようにした。教師が用意したサンプルの紙の靴、また、その制作過程を写真で掲示し、生徒が自分の作品づくりに適した材料や表現方法を十分に考えられるようにした。

途中鑑賞での友達との対話から生まれる新たな発想や、客観的な視点からの感想を大切にし、自身の作品の変容を感じながら「自分を見つめてつくり、新たな自分に出会う」という学びの過程を生徒が実感できるようにした。

2 素材・材料・用具の紹介

素材は、様々な紙を設定した。靴は皮、合皮でつくられているが、その素材と触感が似ているものとして、紙がある。身近であり、様々な種類があり、手や道具を用い、簡単に形を変えていくことができる。作品の主題によっては、異素材との組み合わせも考えさせ、布、ひも、梱包材、綿棒なども選択肢に入れた。表現方法の幅、素材の選択肢を広げる意味で教師は段ボール、菓子パッケージの紙、印刷用紙の包み紙、不要ポスター用紙など、多種類の紙素材を準備し、生徒自身が用意した材料と合わせて自由に使ってよいものとして提案した。生徒一人一人は、自分の主題に合う紙

素材を準備した。古いテキストや、書き込んだ学習プリント、習字の半紙など様々なものがあった。

3 活動内容

追究観点① 受け止めよう 子どもの心

「子どもは自分の心」、「教師は子どもの心」を見つめる2つのベクトルを考えた。生徒が自分の主題を明確にし、表現することと、他者からの客観的視点からの多様な見方、感じ方を通し、自身の作品が主題に沿い、かつ美しく表現できるようにする。

追究観点② 育てよう 確かな力

自己との対話を通して、自分で気付き、感じ、主題を設定し、それに合う表現をしていくことで、思考力、判断力、表現力の育成や、価値観、見方の広がり、自己肯定感の高まりから社会参加へとつなげていく。

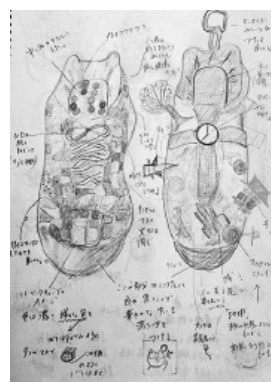
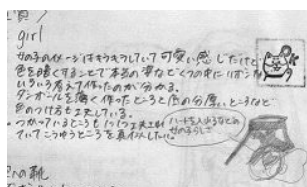
追究観点③ 深めよう 生き生き授業

「子どもの実態を把握し、適切な題材設定」を行う。

「自己との対話、表現力を高める」ことを目標に、題材の演出を工夫し、生徒がワクワクした気持ちをもって活動できる授業を構想する。

「主題を深める過程を重視し、子どもを主体に」作品制作を進められるよう、言葉かけを工夫し、自分を見つめ、主題を設定する対話のステップを丁寧に指導する。

「自己選択、試行錯誤など自由度の保障」を目指し、生徒が主題を表現するために適した表現方法を考えられるよう教室環境などを整える。



4 活動過程

(1) 題材について知り、主題をもとに作品を構想していくこと、紙素材で靴を造形していくことに興味関心をもつ。

- ・作品との対話
- ・作品鑑賞

(2) 白い紙1枚でできる造形を考え、紙でできる表現の可能性を探る。

- ・素材との対話
- ・サンプル制作・鑑賞

(3) 作品、素材との対話を経て、自分の主題、表現したい形を明確にしていく。

- ・自己との対話
- ・アイデアスケッチ

(4) アイデアスケッチを基に、作品制作をする。

- ・自己との対話
- ・途中鑑賞による新たな発見
- ・作品の変容を感じながら完成

(5) 作品鑑賞

- ・鑑賞の視点を設け、それぞれのよさを感じ取れるような鑑賞活動を行う。



5 まとめ

主題を明確にし、思いを込めて作品を表現することは、自分を大切にし、自己肯定感を高めることにつながる。そのことは、制作過程の様子、鑑賞カードの記録内容や、作品から実感することができた。子どもたちは自己との対話をし、3年間学んできたことの集大成として、目には見えない思いを形に表していく造形表現の美しさ、面白さを追求することができた。中学校では身近なもの、自然にあるもの、人工物など様々な素材の特性を活かして造形表現する。今後の生活の中で、様々な素材の見方を広げ、心豊かな生活を創造することにつながっていききたい。

6 指導講評

(川越市立大東中学校 校長 田中 晃)

- ・靴という日常の生活には欠かせないものを新しい発想で夢や希望をもたせる未来のツールへと変換させ、自分を見つめ、創造性を育てていくためのテーマとしてこの題材設定は着眼点が良い。
- ・固定概念にとらわれがちな現代の子どもたちに新しい世界を創り出すという創造力が求められるテーマを導くことやさらに自分を連れ出すという言葉における、今の自分から脱却したり、違った場所に移動させたりするという、わくわくの感覚が感じられ、感性を刺激し、豊かにさせる期待ができる。
- ・題材観、指導観を明らかにし、深く自分を見つめさせるところからスタートした点が評価できる。生徒が自分をどのように見つめているかをアイデアスケッチの中にかかっているつぶやきやメモから拾うなどして確認することは重要。
- ・授業の中に様々な鑑賞活動を取り入れることで生徒により多くの情報を与え、発想や構想を練るための支援を行い、これらを鑑賞メモ・スケッチという手段で記録に残している。ここから生徒の学びの調整などを見取り、さらなるアドバイスにつなげている。このように確かな記録は、生徒の意欲を高める評価活動にもつながる。
- ・アイデアから具体的な制作までの記録を重ねていくことで、自分自身のポートフォリオと作品を振り返りながら、表現することの喜びを感じ取るとともに、他者の表現を認める手段ともなり、そこから自分自身を見つめていくきっかけにもなる。
- ・授業の動機付けから自己との対話をとおして、発想を広げ、感性を磨き、他者との鑑賞によりさらに自分自身を見つめていく。この繰り返し、感覚のスパイラルがつけられていくこと。これこそが、生徒が変容していくまさに「いきいき授業」ではないかと言える。

提案者 酒井 真紀 (東松山・白山中)

記録者 池田恵理子 (吉見町・東第一小)

第3分科会	『生活との対話』
小学校4年生 題材名「街にとけこめ！かきたオブジェ」 ～地域生活とつながる表現活動～	

1 趣旨の説明

本題材は、楽しくリズム感のある動きを立体に表し、作品を通して身近な人々や地域生活とつながることをねらいとしている。題材の内容は大きく「立体に表す活動」と「地域に展示する活動」に分けられ、各活動において児童が「作品を通して人や地域生活とつながる」という目的意識をもって取り組むことで、題材の効果が発揮されると考える。「立体に表す活動」では、児童を粘土作家として設定し、「霞ヶ関北地区から作品展示のオファーが来た！」という題材提示のもとに活動に取り組ませる。その際、粘土の可塑性を生かし、児童が「つくり、つくりかえ、つくる」中で、作品展示を見据えた造形活動ができるようにする。

「地域に展示する活動」では、児童が実際に作品を持って地域に展示する活動と、地域の方々に感想を鑑賞カードに記入していただき、それをもとに学習を振り返る活動を設定する。自分が思いを込めてつくった作品が自分のもとを離れ、人々の目に触れるという体験をすることで、これまではなかった「作品を通して人や地域生活とつながる」ということを実感的に理解できると考える。

2 素材・材料・用具の紹介

素材は土粘土を使用し、「つくり、つくりかえ、つくる」という粘土の可塑性を十分に生かせるようにした。また、素材に変化をつけるための用具として粘土ベラやくし、ひも、竹串等を多数用意し、用具を選択させながら製作活動に取り組むことで、児童の個性が発揮されるようにした。

3 活動内容

追究観点① 受け止めよう 子どもの心

作品の構想及び製作においては、児童の感覚、感じ方、表現に込められた思いを認め、多様な発

想を引き出すようにする。また、活動の振り返りの時間を設定し、児童の考えや価値意識の変容を見取ることができるようにする。

追究観点② 育てよう 確かな力

児童が主体的に製作に取り組むことができるよう、授業の導入で必要となる技法を提示し、技法を生かして自由に粘土に触れ、粘土の可塑性を味わう時間を確保する。また、児童のよい点や面白い工夫は積極的に取り上げ、適切に評価する。

追究観点③ 深めよう 生き生き授業

「街の人を元気にする。」という目的意識をもたせて活動を進め、従業員や施設職員との直接的な対話とともに、作品と鑑賞カードを通じた間接的な対話を生み出すことで、多くの人々の肯定的な言葉から自己有用感を味わわせることができるようにする。

4 活動過程

(提案1) かきたオブジェをイメージしよう！

- ・街トークを行い、霞ヶ関北地区のイメージについて話し合う。
- ・「町に溶け込む自分だけの秘密の生き物」をワークシートにデザインする。
- ・霞ヶ関北地区を元気にするためにはどんな生き物がよいか考えさせる。

(提案2) ねん土作家になって作品を作ろう！

- ・粘土で造形遊びをする。粘土を「ひねり出す」「つまみ出す」「にぎる」「たたく」「くり抜く」「つなげる」などの活動にオリジナルの技法フレーズを基に取り組みせ、粘土の楽しさや可塑性を味わわせる。
- ・デザイン画を基に立体に表すとともに、体を動かしながらイメージを広げ、動きを加えたりつくりかえたりする。
- ・作品カードに作品名とオブジェに込めた思いを書かせる。





(提案3) かきたオブジェを町に展示しよう！

- ・実際に公民館や図書館、商店街に出向き、作品を展示する。
- ・公共施設の職員の方や地域で働く方々と直接的な関わりをもつことで、作品を通して人や地域生活とつながることができることを実感させる。
- ・鑑賞カードを合わせて設置し、地域の方々からの感想を間接的に受け取ることができるようにする。



(提案4) 街の人々の思いを知り、これからの作家生活につなげよう！

- ・作品の搬出後、地域の方々からいただいたメッセージを読み、活動を振り返る。
- ・自分たちの作品が地域の方々から評価される経験を通して、作品と人、地域生活とのつながりを実感的に理解させるとともに、自己有用感を味わわせる。



5 まとめ

「生活との対話」⇒「地域生活との対話」と解釈して本題材を進める中で、『作品を通じた対話』を数多く生み出すことができた。児童には地域への愛着があり、「街を元気にしたい」という願いを街の人々に確かに届けることができ、さらに街の人々の思いを受け取るという双方向のやり取りができたことは大きな成果と言える。

6 指導講評

(所沢市立北中小学校 校長 鈴木勢津子)

- ・図画工作科の目標に明記されている「豊かな情操」とは、礼儀や思いやり、感動や感謝など、道徳性の基盤とも言える重要な要素である。今回の提案では、相手のことを思いながらの製作活動や、商店街の人々との関わり、鑑賞した人々の言葉を受けての振り返りなど、子どもたちの豊かな情操を養う活動が数多く取り入れられていた。
 - ・校外に児童の作品を展示する機会を設けたことで、児童の作品を通して、学校と保護者、地域との連携を深めるきっかけを生み出していた。
 - ・プロジェクトのプロセスが素晴らしかった。
- ①街トーク→街のイメージからどのように街を変化させていくかを考えるこの活動は、学習活動を深めるために有効な手立てだった。
 - ②商店街からのメッセージ→「もっともっと元気な街にしてください。楽しみにしています。」という商店街会長からのメッセージは、子どもたちの意欲付けに大きな効果があった。学びに向かう力、人間性の育成につながっていた。
 - ③デザイン→商店街のことを考えたデザインが多く、子どもたちの願いが表れていた。
 - ④作品づくり→作品が商店街に置かれることを想像してつくっている姿、手と頭を使って試行錯誤している姿、自分の作品と向き合う姿がとても素晴らしかった。生活との対話であると同時に、自己との対話でもあり、作品＝自分となっていく様子が見られた。
 - ⑤プレ展示・搬入→保護者からのメッセージが子どもたちの自信や希望につながり、搬入作業での子どもの生き生きとした姿につながっていた。
 - ⑥展示・商店街の人の声→作品を通して心がつながった瞬間がいくつも見られた。
- ・「もの」「こと」「人」「作品」「心」がつながり、未来へとつながっていく実践だった。

提案者 木藤 龍一 (川越・大東西小)

記録者 萩原 秀基 (川越・南古谷小)

第3分科会	『生活との対話』
中学校1年生 題材名「伝えるアートつながるアート」 アートで心豊かな環境を ～POPではじまる 伝える楽しさ～	

1 趣旨の説明

今年度から中学校で実施された新学習指導要領によると、美術科の目標の「美術」の表記が「生活や社会の中の美術や美術文化」と改められた。

美術は生活や社会にあふれているにもかかわらず、子どもたちは授業での作品制作や鑑賞にとどまり、広い視野をもって美術科で学んだ事を生活の中に生かしたり、美術や美術文化に関わったりしていない。また、日常生活でも小学生の頃に時間を見つけて絵を描いたりモノをつくったりした経験も、中学生になると部活動や勉強に追われてしまい、少なくなってしまった。そうした背景から、生活を楽しく豊かにする造形や美術の社会での働き、美術文化についての理解を深める授業を創り出していくことが重要である。

以上を踏まえ、子どもたちが実感し、美術の役割の理解を深められる授業を実践した。

2 素材・材料・用具の紹介

紹介したいおすすめの本、トレーシングペーパー、色画用紙、紙粘土、アクリル絵の具、色鉛筆、サインペン、カッター、ハサミ等、今まで使用したことのある材料や描画材を美術室にあるものは教師が準備し、必要に応じて各自で用意する。

3 活動内容

第1次「POPってなんだろう」(発想・構想)

- * POPについて理解し、POPの効果について考え発想し構想を練る。

第2次「おすすめの本のPOPを作ろう！」(制作)

- * 伝えたいことを整理する。
- * 読みたい本を探しに来た人が足を止めてくれるような視覚的・造形的な効果を考え制作する。

- * 様々な材料を使いながら、伝えたいことが効果的に伝わる表現を考える。

第3次「おすすめの本を紹介しよう！」(鑑賞)

- * 友達同士で互いに好きな本の紹介をする。

第4次「POPを効果的に飾ろう」

- * 学校の図書室、地域の書店や図書館へ出向き、本を探している人の目線になり、効果的に飾る。

第5次「伝えようつながろう」

下記の連携を通して社会と繋がり伝える活動をした。

- * 本校図書室での紹介による、異学年交流と、本校の朝読書を盛り上げていく活動。
- * 地域小学校との連携による、異校種交流活動。
- * 地域書店・市立図書館との連携による、社会との地域交流活動。



4 活動過程

- ① POPについて国語の教科書を使って説明しました。
「教科融合型」



- ② 各自好きな本を持ってきて、アイデアスケッチを考えます。グループで活動することで、お互いに情報交換をする。



- ③ アイデアスケッチを元に立体感を出しながらつくる。本を選ぶ人の側に立って制作を進めていく。



- ④ イメージに合わせて素材を選んだりするなど、表現方法を考える。



- ⑤ 完成した作品は、本校の図書室で紹介する。



- ⑥ 書店に飾るときは、お客さんの目線になって飾る。



5 まとめ

美術科の目標にあるように、美術は人々の生活と密接に関係する教科である。「伝えるアートつながるアート」として学びを実生活や実社会とつなげ生かしていく中で、子どもたちは今まで気付かなかった美術の働きを実感できたのではないだろうか。教室の中の友達だけでなく、店員さんやお客さんの反応を見ることで、制作者としての場に立った目線で改めて作品を見たり、作品は美術室でなく、店や図書館に置いてあることで、そこが活気ある楽しい環境になったことが実感できた。これからも授業を通して社会に関わっていき、美術のもつ可能性を伝え、子どもたちの創造する力や人間力を養っていきたい。

6 指導講評

(越谷市立千間台中学校 教頭 小林昭生)

- ・今回の授業は、新学習指導要領の内容を理解しながら改めて見直し、どのような資質・能力を育成することができるのかを確認したことがとてもよかった。
- ・これまでの内容と大きく変わるものではないからこそ、改定の趣旨や要点を押さえて、題材の目標や指導内容、評価等を見直して継続して取り組むことが大切である。
- ・生活との対話で取り上げた「おすすめの本のPOPをつくろう」は、国語科との連携を取り入れる教科等横断的な視点や、市立図書館や書店、近隣の小学校という地域との連携を図るなど活動の場を広げている。これからの学校教育に求められる「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組がされていて素晴らしい。
- ・自分の制作したPOPが、身近な図書室や図書館、書店で活用されるのだという思いは、発想や構想、制作での意欲につながる。また、見る人や買う人の気持ちを考えるという視点は、地域の一人としての存在感を感じることであり、生活や社会と豊かに関わることにつながることができる。
- ・この学習後、「造形的な見方・考え方」を通して、自分の身近な生活や社会の中で他にはどのような関りができるのかを考えたり、実際に行動できるような発展につなげられるか楽しみである。

提案者 谷 弘美 (春日部・大沼中)

記録者 牛久 智美 (春日部・春日部中)



第4分科会	『作品との対話』
小学校2年生 題材名「創作意欲を高める鑑賞活動 ～いつでもどこアート～」	

1 趣旨の説明

本題材は、教師があるテーマを示し、児童がテーマに沿って学校の敷地内の写真を撮る活動を中心にして友達と意見交換したり、写真を紹介し合ったりする活動である。いつでもどこでも持ち歩ける枠を使い、その枠を通して見ることができる景色を鑑賞していくことで、児童の感性を育むことができると考えた。テーマとしては「好きな景色」や「季節を感じる景色」というようにある程度対象を絞ることができるように設定した。

数回に渡り、写真を撮る活動や紹介し合う活動を行い、自分の発想や構想に自信をもち、自分の思いを伝えられるようになってほしいという願いを込めて、「いつでもどこでもアート」の実践を行った。

2 素材・材料・用具の紹介

1回目は全員共通の四角い枠（厚紙）、2回目は十字の糸の入った構図のわかりやすい枠（厚紙）、3回目は葉や花びら、円などの形が繰り返し抜かれた枠を用いた。

2回目は十字の糸が写真にするときにはぼやけてしまった。3回目は発砲スチロールの厚い板をくり抜いて作成した。自分の考えで形や色を選択できるようにしたが、発砲スチロールの枠は風の影響を受け、折れてしまうことがあり、強度の面で問題があった。



1回目の枠



2回目の枠



3回目の枠

3 活動内容

追究観点① 受け止めよう 子どもの心

自分の発想に自信をもてない児童に自信をもたせる、つまり「自己肯定感を高める」ことが重要と考え、児童の発想に共感することを重点的に取り組んだ。そしてその発想に対して根拠や理由が明確になるように問いかけをして、自分の考えを話させるようにした。最後に友達の前で発表する機会を設け児童なりの「造形的な見方・考え方」を育むことができたようにした。

追究観点② 育てよう 確かな力

「育てよう 確かな力」では、身に付けたい確かな力を自己表現を育む力と自分がよいと思う構図を見付ける力の二つだと考えた。自己表現を育む力とは自分の思いを言葉で表現する力と考え、自分の思いを言葉で相手に伝えたり、表現したりする力を付けるようにした。

追究観点③ 深めよう 生き生き授業

児童の資質・能力を引き出す工夫として主体的で対話的な深い学びを展開していく。1つ目は題材の工夫である。手軽に実践できる題材のため、授業中だけでなく、休み時間等でも気に入った景色を見つけて切り取ることができる。2つ目は用具の工夫である。1回目から3回目まで枠を順番に変えることで、徐々に自分の思いを伝えられるようにしていくことに役立つと考えた。3つ目は児童の実態に合わせた指導を心掛けた。自分の思いを伝えることを苦手としている児童に個別に声かけを行ったり、友達からよいところを伝えてもらったりして、自分のよさに気づき、自信をもてるようにした。

4 活動過程

全部で3回の鑑賞の授業を行った。それぞれの授業で、教師がテーマを示し、児童はそれに合う景色を見つけて自由に写真に収めていく。

(1) 第1回

テーマ「自分の好きなけしき」

全員が校庭から好きな景色を見つけた。自分の写真のよさを話したり、伝えたりするのはまだ難しいようであった。

(2) 第2回

テーマ「きせつをかんじるけしき」

一回目に記入したプリントと比べて自分のよさを書ける児童が多くなった。景色から感じるイメージを捉えて記入している児童も見られた。

(3) 第3回

テーマ「きせつをかんじるけしき②」

色や形が違う枠から自分で選んで、自分のイメージする景色を見付け出した。一回目、二回目よりもより自分がその枠にした理由、景色を選んだ理由を話すことができた。



5 まとめ

児童が与えられたテーマに沿って好きな風景を見つけていくという活動から、友達同士の対話、教師と児童の対話を通して、児童の自己肯定感を高めることができた。児童は回数を重ねるごとに景色に対する見方や感じ方、表現の仕方も変わってきたように思う。

授業だけではなく、休み時間等も枠を使って遊んでいる姿が見られ、造形への興味・関心を高めることができた。また、他の図工の活動でも構図を意識することはとても重要であるので、他の活動でも活用できる能力を育むことができた。

6 指導講評

(熊谷市立佐谷田小学校 校長 木村浩)

- ・本実践で、子どもたちにとって身近な環境である学校の敷地内で、「枠」を使って気に入った景色を発見して紹介し合う(観賞し合う)活動に取り組んだ。自分が気に入った景色を互いに紹介し合う活動は、低学年の児童にとって、やや難しさを感じる子もいたかもしれないが、今まで使ったことがない「枠」を用いて景色を切り取るという活動そのものは、多くの児童に「面白そうな活動だな」と感じさせる効果が期待できる工夫だったのではないかと。
- ・「自分の表現に自信をもてない」児童や「自分の表したい思いを伝えるのが苦手」な児童がいるという課題に対して、自分の気付き(発想)に教師が共感してくれたことや、自分の気付きを教師や友達に見てもらった機会があったことは、多くの児童にとって自分の気付き(発想)に安心感をもつことができたり、自分の思いを伝える練習を重ねることができたりと、どちらも効果的な取り組みだったと思う。最も大切な取り組みだったと思うのは、児童の気付きに対し、根拠や理由が明確になる問いかけをしたのではないかと考えた。「ただなんとなくよい。」ではなく、「こういう根拠や理由があるからよい。」と自信をもって紹介できることが重要である。
- ・GIGAスクール構想の前倒しにより各学校にも一人一台タブレット端末などのICT機器が導入されたと思うが、今後は、タブレット端末で「写真」を撮り、アプリソフトを使ってそれぞれの「写真」を集め、電子黒板などで提示するなど、ICT機器を活用した実践も可能になると思う。
- ・本実践の最大の魅力である「手軽さ」を大いに利用して、子どもたちの「造形的な見方・考え方」がより高まるよう、各校の図画工作科の指導計画に、この実践をヒントとしたミニ題材を設定するのもよいかもしれない。

提案者 嶋田弥栄(熊谷・佐谷田小)

記録者 竹内 彩(熊谷・中条小)

第4分科会	『作品との対話』
中学校1年生 題材名「高見えグラム」 (SNS環境を模した相互の作品鑑賞活動)	

1 趣旨の説明

本題材は、生徒が「美しい」をテーマに撮影してきた写真を持ち寄り、鑑賞し合う内容である。現在、写真による相互の鑑賞活動は、SNS環境の中で日常的に行われている。生徒にとって身近なSNS環境を模することで、今後の美術の授業だけでなく、彼らの日常生活にも繋がり、生かされていくようにした。

複数の写真を見た時、直感的に「いいね」と共感を示して終わってしまうことは多くある。本題材では、自分は何でその写真に心惹かれたのか、「いい」と感じさせる要素は何なのかを造形的な視点(つまり美術科の〔共通事項〕の視点)から意識的に考え、それを他者と共有していく。こうした活動を通して、自他の価値観を知り、豊かに感性を育てていくことをねらいとしている。

2 素材・材料・用具の紹介

教師は、生徒の「ものの見方」を広げるための導入資料として、様々な視点から風景や物を撮影した5分程度のスライド映像を準備した。また、1時間目で「なぜ美しいと感じるのか」を話し合うために使う参考写真も用意した。この参考写真は、できるだけ形・色彩・印象の異なるものを数種類用意した。

生徒は、「美しい」をテーマに撮影してきた写真を各自で用意した。夏休みや冬休み等の長期休暇の課題にして、自らを取り巻く環境の中から自分なりの「美しい」を、時間をかけて見つけられるようにした。

3 活動内容

追究観点① 受け止めよう 子どもの心

「なぜ心惹かれたのか」を造形的な視点から考え話し合わせる際に、互いに感想を書き込めるよ

うなワークシートや「いいねシール」等を活用し、一人ひとりの感性を引き出し、認め合えるようにした。

追究観点② 育てよう 確かな力

題材の目標に沿って授業内での活動の様子や発言を記録したり、生徒一人一人の目標到達状況が把握できるようなワークシートを作成したりすることで、指導と評価の一体化を目指した。

追究観点③ 深めよう 生き生き授業

授業の終末で一人ひとりが育んできた自らの「ものの見方」を生かせるようなグループワークを設定することで、生徒が主体的・対話的に学習し、より深い学びに到達できるようにした。

4 活動過程

- 【1時間目】数種類の参考写真の中から「いいね」と感じた写真を選び、グループに分かれて魅力を感じた理由を話し合う。
- 【夏休み・冬休み等】「美しい」をテーマに各自で写真を撮影してくる。
- 【2時間目】自分で撮影してきた写真を振り返り、「なぜ美しいと感じたのか」、「美しいと感じさせる要素は何か」等を考えてワークシートにまとめ、全体で鑑賞会を行う。



- 【3時間目】グループワークとして、(2)で鑑賞した写真の中から複数選び、造形的な共通点やイメージを話し合っ、#(ハッシュタグ)を考える。



5 まとめ

(1) 成果

- ・写真は「うまい／へた」が出にくく、どの生徒も負担感をあまり感じず楽しく活動に参加できた。
- ・対話を通じて他者の感性にふれることで、自分との違いや重なりを発見でき、造形的なものの方の見方・感じ方の広がりが多い生徒のワークシートから見られた。
- ・知識([共通事項])が身に付く機会となり、他の鑑賞活動や表現活動で活用できる生徒が見られた。
- ・「次は〇〇を撮りたい」、「次はこんな工夫をして撮りたい」といった感想も見られ、自己表現を楽しみ、高めていく姿勢の育成に繋がった。
- ・相互の鑑賞活動によって多様な感性を発見し、お互いの価値観を認め合えた。
- ・今年度から小中学校に導入されたタブレットPCや学習アプリケーションを用いた実践に転用できる。

(2) 課題

- ・指導と評価の一体化に生かせるワークシートのさらなる改善が必要である。
- ・話し合い活動をより効果的にするための指導の工夫を考える必要がある。
- ・写真のうまさ、テクニックに「いいね」をした生徒がいた場合は、どのように評価を行うべきか検討する必要がある。
- ・インターネット上の画像を使用しないよう、著作権、肖像権に関する事前指導の必要がある。
- ・1回の題材で完結させず、今回得た力が他の美術の授業のどんな場面で活用されたのか、変容を見取っていく。

本題材は、まだまだ実験的な取組であるが、成果を生かし課題に検討を加えて、さらに生徒の感性を豊かにしていけるよう改善をはかっていきたい。

6 指導講評

(さいたま市立城南中学校 校長 金子 宜史)

- ・生徒たちの「心をくすぐる導入」として、様々な視点で撮影した写真のスライドショーを準備し、生徒たちの造形的な視点のヒントとなる工夫がされていた。
- ・生徒作品を扱う内容では、個々が見付けた造形的要素について、工夫しながら、[共通事項]を大変よく指導していた。また、それらを元にお互いを認め合い、対話を行い、更に# (ハッシュタグ) を使って作品の共通点をグループで考える等、「木を見る視点」と「森を見る視点」をよく捉えた鑑賞活動となっていた。結果、生徒の感想からも、自分の感じ方と他の人の感じ方を比べたり重ね合わせたりして、心に変化が生まれてきたことがよくわかり、生徒にとってまさに大きな「森」を体感できた内容となっていた。
- ・1つの学年で終結するのではなく、他の学年でも内容をレベルアップさせ、積み重ねた授業を行うことにより、生徒たちの感じる力は更に向上していく。それは、他の鑑賞活動や表現活動にも活用できる生徒が見られたことや、授業アンケート調査結果からも、知識([共通事項])が身に付いていることが伺えた。
- ・今回の授業実践は、高見先生が中心となってつくってこられたが、さいたま市西区の中学校美術科の先生方と「感性を育む」題材について協議を重ねており、他校の先生方との横のつながりを感じるものだった。生徒同様、教員同士も対話していくことで考えが整理されていく。「美術は何を学ぶ教科なのか」、美術科に関する資質・能力の向上を目指すために、私たちにこれからの授業の可能性を広げてくれる内容であった。

提案者 高見 藍(さいたま・大宮国際中等教育学校)

記録者 山崎 努(さいたま・土屋中)

令和3年度 埼玉県美術教育連盟役員

顧問 山屋 敬典 五井 修 馬場 恒安 三澤 文人 松本 晃 野澤 優 茅野 憲一
 石田 拓喜 笠原 秀夫 村上 博俊 矢嶋 廣明 関根 隆之 加藤 修

連盟長 中川 昇次 さいたま・片柳中
 副連盟長 丹後 雅博 さいたま・大宮西小 岩田 直代 川口・鳩ヶ谷小 鈴木 勢津子 所沢・北中小
 勝山 寛美 上里町・上里中 中島 高広 加須・三俣小
 監事 田中 晃 川越・大東東中 伊藤 政久 川口・安行東小
 研究部長 山田 一文 戸田・美女木小
 編集部長 板橋 利行 川口・元郷南小
 事業部長 閑野 千鶴 桶川・日出谷小
 事務局長 坂井 貴文 埼玉大附属小

幹事 [本部役員事務局]
 安藤 健太 埼玉大附属小 荒川 祥輝 埼玉大附属小 小西 悟士 埼玉大附属中
 吉田 真梨 埼玉大附属中
 [本部役員事務局会計]
 日高 大介 さいたま・南浦和小

常任理事・理事 (◎：ブロック長 ○：地区代表 ◇：地区事務局長)

地区	常任理事	理事・小	理事・中
さいたま市	◎丹後 雅博 さいたま・大宮西小		
	○中川 昇次 さいたま・片柳中 丹後 雅博 さいたま・大宮西小 村田 寿一 さいたま・鳥小 石田 成夫 さいたま・西浦和小 寺内 啓容 さいたま・南浦和中 大河内 範一 さいたま・指扇中 金子 宜史 さいたま・城南中 中込 光統 さいたま・文蔵小 勝俣 寿子 さいたま・岸町小 正田 真由美 さいたま・馬宮中 藤本 往弘 さいたま・大宮南中 小川 直生 さいたま・三橋中 ◇田島 均 さいたま・辻小	石井 ゆかり さいたま・大砂土小 飛知 和朋子 さいたま・大宮西小 才津 純子 さいたま・常盤小 依田 淳子 さいたま・大宮南小 磯部 繁征 さいたま・片柳小 日高 大介 さいたま・南浦和小 吉田 桂子 さいたま・東大成小 河村 智佳 さいたま・下落合小 鈴木 利枝 さいたま・岸町小 秋山 真吾 さいたま・木崎小 駒込 祥子 さいたま・善前小 阿部 純子 さいたま・城北小 弾塚 郁枝 さいたま・大谷場小 脇元 重彰 さいたま・蓮沼小	山口 史貴 さいたま・大宮北中 小林 幸子 さいたま・三橋中 尾竹 朝子 さいたま・本太中 山岸 啓介 さいたま・指扇中 板倉 香代美 さいたま・宮原中 鳥山 多加子 さいたま・上大久保中 小口 稚聡 さいたま・与野東中 高藤 友輔 さいたま・大宮南中 川幡 木綿子 さいたま・三室中 三浦 幸 さいたま・大原中
南ブロック	◎岩田 直代 川口・鳩ヶ谷小		
	○山根 淳一 戸田・戸田第二小 山田 一文 戸田・美女木小 板橋 利行 川口・元郷南小 加田 明 川口・原町小 伊藤 政久 川口・安行東小 小出 喜代子 川口・領家中 岩田 直代 川口・鳩ヶ谷小 岩崎 良紀 朝霞・朝霞第五中 滝沢 和子 戸田・美谷本小 ◇高田 悠希子 戸田・新曾中 松井 一民 草加・谷塚小 中西 正春 志木・志木中 矢花 俊樹 蕨・北小 大森 晴海 和光・第二中 齋藤 彩乃 朝霞・朝霞第八小 吉田 賢宏 川口・戸塚小	高比 良紀 代美 戸田・芦原小 杉浦 勝明 蕨・塚越小 梅津 一義 川口・飯塚小 吉田 健一 草加・瀬崎小 門田 生世 志木・宗岡第三小 依田 祥子 新座・第四小 吉野 綾 朝霞・朝霞第六小 隅田 菜月 和光・本町小 小林 美咲 和光・北原小 山口 朱音 和光・本町小	濱田 征臣 戸田・喜沢中 益田 由可 蕨・第二中 羽鳥 弘次 川口・十二月田中 本多 啓介 草加・草加中 石黒 ゆかり 志木・式中 浅沼 夏菜 新座・第六中 富岡 史子 朝霞・朝霞第四中 大森 晴海 和光・第二中
北ブロック	◎閑野 千鶴 桶川・日出谷小		
	○閑野 千鶴 桶川・日出谷小 荒井 幸子 鴻巣・鴻巣西中 石塚 香代 鴻巣・赤見台第一小 庄田 薫 鴻巣・屈巣小 ◇馬場 有香 鴻巣・広田小 関口 竜平 上尾・上平中 大島 伸夫 上尾・大石中 尾見 拓哉 上尾・富士見小 ◇小野 東子 伊奈町・伊奈中 宮川 則仁 伊奈町・小室小	尾見 拓哉 上尾・富士見小 山田 成美 桶川・朝日小 柿田 結花 伊奈町・小室小 小野 寺彩 北本・中丸東小 山下 智香子 鴻巣・吹上小	大島 伸夫 上尾・大石中 津田 理恵子 桶川・加納中 鎌田 泰伸 伊奈町・小針中 田中 和之 北本・北本中 加藤 修 鴻巣・吹上中
西部ブロック	◎鈴木 勢津子 所沢・北中小		
	○鈴木 勢津子 所沢・北中小 田中 晃 川越・大東中 田中 俊一 所沢・松井小 武田 圭介 富士見・鶴瀬小 嶋田 恵美子 川越・中央小 ◇高橋 瑠美 川越・高階西小 小岡 子勝司 ふじみ野・駒西小 川端 潤子 入間・藤沢東小 皆川 優花 鶴ヶ島・新町小 木村 牧恵 入間・狭山小 杉浦 ゆうこ ふじみ野・西小 森下 弘章 飯能・飯能第一中 児島 綾子 狭山・入間川小 勝野 優子 富士見・勝瀬中 熊谷 里香 鶴ヶ島・藤中 西宮 淳 毛呂山町・光山小 星 真弘 所沢・中央小 木藤 龍一 川越・大東西小	山本 紫陽 入間・新久小 八巻 恵子 毛呂山町・毛呂山小 栗原 苑美 川越・山田小 佐藤 さやか 川越・新宿小 大塚 七海 坂戸・勝呂小 中園 裕行 狭山・入間野小 五十嵐 朋 鶴ヶ島・杉下小 清水 礼奈 鶴ヶ島・長久保小 宇佐美 馨 飯能・市場小 山口 則弘 飯能・美杉台小 福田 優 富士見・水谷小 五十嵐 由里子 三芳町・唐沢小 白岩 真美 ふじみ野・亀久保小 大越 真澄 ふじみ野・鶴が丘小 齋藤 好美 日高・高麗小 岡本 拓実 日高・武蔵台小 丸山 郁 所沢・北中小 高野 敏 所沢・椿峰小	後藤 智美 入間・野田中 野口 真美 毛呂山町・毛呂山中 日山 しのぶ 川越・川越第一中 佐藤 美和 川越・大東中 亀山 幸子 坂戸・千代田中 石川 祐輝 狭山・中央中 内田 薫子 飯能・加治中 照井 恵 富士見・東中 岸野 直子 三芳町・三芳中 田中 裕樹 所沢・北野中

地区	常任理事	理事・小	理事・中
西部ブロック	比企 ○阿形寿和 東松山 野本小 西川洋充 東松山・高坂小 大矢輝啓 東松山・松山第一小 万里拓己 小川町・東中 児玉萌 滑川町・宮前小 川端秀幸 ときがわ・萩ヶ丘小 古橋咲絵 川島町・伊草小 渡辺薫 吉見町・吉見中 ◇二木洋明 東松山 東中	長島友希 東松山・松山第二小 安元泰子 小川町・小川小 細田千恵 嵐山町・菅谷小 藤原ゆきの 鳩山町・今宿小 池田恵理子 吉見町・東第一小	百瀬幸一 川島町・川島西中
北部ブロック	◎勝山 寛美上里町・上里中 児玉 ○岡村和美 本庄・北泉小 小柳雄二 美里町・東児玉小 星野晴紀 上里町・上里中 ◇伊能純枝 神川町・神泉小 小林玲子 美里町・大沢小 小泉亘 本庄・本庄西小 根本裕美 本庄・北泉小	小泉亘 本庄・本庄西小 徳江悟 本庄・児玉小 坂本千夏 本庄・旭小 根本裕美 本庄・北泉小 若山範子 上里町・長幡小 伊能純枝 神川町・神泉小 内田薫 神川町・青柳小 小林玲子 美里町・大沢小	高橋京子 本庄・本庄東中 肥高雅美 本庄・本庄西中 森重利枝子 本庄・本庄南中 二木利子 本庄・児玉中 星野晴紀 上里町・上里中 安藤友紀 上里町・上里北中 三宅光起 美里町・美里中 橋本悠揮 神川町・神川中
大里	○大谷裕紀 熊谷・玉井小 井上恵美 熊谷・玉井中 青木夏恵 熊谷・大幡小 大竹清之 深谷・藤沢中 田島かおり 深谷・南中 横塚久美子 深谷・上柴東小 武藤和美 深谷・深谷西小 山岸佐知子 深谷・川本北小 古屋美恵子 深谷・花園小 村田瑛音 寄居町・折原小 井上詠子 寄居町・寄居中 ◇中村一裕 熊谷・富士見中	金子郁也 熊谷・成田小 関根敦美 熊谷・吉岡小 中澤あかね 熊谷・三尻小 永井絵美 熊谷・妻沼南小 古屋美恵子 深谷・花園小 和田志織 寄居町・男衾小	平井倫 熊谷・吉岡中 永井浩子 熊谷・三尻中 矢島秀吉 熊谷・奈良中 大沢弥生 熊谷・妻沼東中 井上暢之 深谷・深谷中 根岸由紀 深谷・岡部中 吉田賢彦 深谷・花園中 井出はる枝 寄居町・男衾中
秩父	○大澤伸一 秩父・尾田蒔小 加藤悦子 小鹿野町・小鹿野中 長橋寿子 小鹿野町・長若小 ◇中村直史 秩父・秩父第一中	須永美礼 小鹿野町・両神小 小林美咲 横瀬町・横瀬小	赤岩菜美 秩父・秩父第二中 関根梓 長瀬町・長瀬中
東部ブロック	◎中島 高広加須・三俣小 北埼玉 ○中島高広 加須・三俣小 寺井進一郎 羽生・東中宇 栗城敦志 加須・花崎北小 村上訓 行田・西中 山水明 羽生・東中 北山奈津美 加須・大利根中 稲垣直人 羽生・東中 ◇甘菜絃子 行田・西中	柳澤麻衣子 行田・西小 丑久保千恵 行田・中央小 五十嵐はる菜 羽生・三田ヶ谷小 小山貴典 羽生・岩瀬小 岡安美沙枝 加須・加須小 林和子 加須・田ヶ谷小 金子愛子 加須・豊野小 金越人美 羽生・新郷第二小	岩淵優子 加須・駒西中 小島容子 加須・昭和中 岡戸美樹子 行田・行田中 五味愛子 行田・長野中 大塚愛加 行田・忍中 川久保秀美 羽生・南中
埼玉葛	○小林昭生 越谷・千間台中 清水和貴 三郷・彦郷小 守田純一 三郷・立花小 伊藤裕介 越谷・中央小 鳥海奈津子 久喜・鷺宮西中 鈴木理恵子 久喜・鷺宮小 松村陽子 越谷・花田小 平栗彰子 春日部・上沖小 石川清子 白岡・白岡中 小山健 北葛飾郡松伏町・松伏小 桐ヶ谷麻紀 吉川・中曾根小 ◇川上京太 越谷・千間台小	林友子 春日部・内牧小 中村恵三子 蓮田・蓮田中央小 川上京太 越谷・千間台小 小関友美子 八潮・柳之宮小 西隆広 久喜・砂原小 影山聡一郎 白岡・菁莪小 續橋典子 宮代町・笠原小 横田香 幸手・八代小 長塚美幸 杉戸町・杉戸小 芦田晟也 松伏町・松伏小 飯島聖美 吉川・美南小 辻司 三郷・彦郷小	谷弘美 春日部・大沼中 森田玲奈 蓮田・南中 新井美智 越谷・大袋中 栗原雅子 八潮・潮止中 鳥海奈津子 久喜・鷺宮西中 田中智興 白岡・篠津中 吉村英治 宮代町・百間中 中村美杉 幸手・西中 秋間浩美 杉戸町・杉戸中 渡邊唯 松伏町・松伏中 佐々木幸太 吉川・南中 本間恵里加 三郷・早稲田中
埼玉大学	坂井貴文 埼玉大附属小 小西悟士 埼玉大附属中	安藤健太 埼玉大附属小 荒川祥輝 埼玉大附属小	吉田真梨 埼玉大附属中

専門部事務局

部	専門部事務局 (◎：部長 ◇：部事務局長)			
研究部	◎山田一文 戸田・美女木小 石井ゆかり さいたま・大砂土小 脇元重彰 さいたま・蓮沼小 高藤友輔 さいたま・大宮南中 砂川夏菜 新座・第六中 関口竜平 上尾・上平中 大山文子 鴻巣・川里中 長峰絵里子 桶川・桶川西中 田野順子 北本・東小	石塚香代 鴻巣・赤見台第一小 尾見拓哉 上尾・富士見小 大島伸夫 上尾・大石中 大森晴美 和光・第二中 二木洋明 東松山・東中 井手晋一 狭山・新狭山小 安藤栄信 川越・名細中 高野敏 所沢・椿峰小	鈴木彩子 坂戸・城山中 古屋美恵子 深谷・花園小 根岸由紀 深谷・岡部中 榎本浩子 深谷・岡部小 小山健 松伏・松伏小 平栗彰子 春日部・上沖小 甘菜絃子 行田・長野中 中温子 白岡・南中学校	
事業部	閑野千鶴 桶川・日出谷小			
編集部	◎板橋利行 川口・元郷南小 ◇本多啓介 草加・草加中 杉原優華 和光・広沢小 宮澤直美 新座・陣屋小 阿武智子 吉川・三輪野江小 杉浦うこ ふじみ野・西小	秋山真吾 さいたま・木崎小 鈴木利枝 さいたま・岸町小 濱田征臣 戸田・喜沢中 西宮淳 毛呂山町・光山小 金山智子 川口・東本郷小 高田悠希子 戸田・新曾中		

埼玉県美術教育連盟会則

第 1 章 総 則

- 第 1 条 本会は、埼玉県美術教育連盟と称し、事務局を会長指定の学校に置く。
- 第 2 条 本会は、美術教育の振興を図ることを目的とする。
- 第 3 条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- 1 美術教育に関する調査研究、並びに調査研究の奨励・助成。
 - 2 講演会、講習会、研究協議会、展覧会、制作会等の開催。
 - 3 関係機関・団体との連絡。
 - 4 その他必要な事項。

第 2 章 組 織

- 第 4 条 本会は、埼玉県内小中学校の美術教育に関する教職員をもって組織する。

第 3 章 役 員

- 第 5 条 本会に次の役員を置く。
- 1 連 盟 長 1 名
 - 2 副連盟長 5 名
 - 3 常任理事 若干名
 - 4 理 事 若干名
 - 5 監 事 2 名
 - 6 幹 事 若干名
- 第 6 条 役員の仕事は、次のとおりとする。
- 1 連盟長は、本会を代表し、会務を総理し、各種会議等を召集する。
 - 2 副連盟長は、連盟長を補佐し、連盟長に事故ある時はその職務を代理する。
 - 3 常任理事は、常任理事会を構成し、会務の企画、執行するとともに、各地区と連絡の任に当たる。
 - 4 理事は、理事会を構成し、総会から委任された事項について審議決定するとともに、各班との連絡の任にあたる。
 - 5 監事は、会計を監査する。
 - 6 幹事は、庶務会計をつかさどる。
- 第 7 条 役員を選出は、次のとおりとする。
- 1 連盟長、副連盟長、監事は、理事会で選出する。
 - 2 常任理事は、各地区ごとに、小中学校 1 名を選出する。ただし、必要により若干名を増すことができる。
 - 3 理事は、各班ごとに小中学校各 1 名を選出する。
 - 4 常任理事、理事は兼ねることができる。

- 5 幹事は、連盟長が委嘱する。幹事のうち 1 名を事務局長とする。

- 第 8 条 役員の仕事は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。補欠役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

- 第 9 条 本会に顧問を置くことができる。

第 4 章 機 関

- 第 10 条 本会に、次の機関を置く。
- 1 総会 2 理事会 3 常任理事会
- 第 11 条 総会は、毎年一回開催する。ただし、必要により臨時に開催することができる。
- 1 総会では、次の事項について、審議決定する。
 - (1) 会務の報告ならびに決算。
 - (2) 事業計画ならびに予算。
 - (3) 会則の変更、その他必要な事項。
 - 2 総会は、必要により、理事会をもって、これにかえることができる。
- 第 12 条 理事会は、次の事項について審議する。
- 1 会務の報告ならびに決算。
 - 2 事業計画ならびに予算。
 - 3 会則の変更、その他必要な事項。

- 第 13 条 常任理事会は、次のことを行う。
- 1 各種原案の作成。
 - 2 総会、理事会決定事項の処理。
 - 3 その他必要な事項。
- 第 14 条 本会は、会務を処理するため、次の専門部を設ける。ただし、必要により臨時に専門委員会を設けることができる。
- 1 研究部 2 事業部 3 編集部

- 第 15 条 各専門部ならびに専門委員会の構成は理事会で定める。

第 5 章 会 計

- 第 16 条 本会の経費は、埼玉県連合教育研究会の配分金をもって充てる。

- 第 17 条 本会の会計年度は、4 月 1 日より翌年 3 月 31 日までとする。

- 付 則 本会則は昭和 25 年 5 月 1 日から施行する。

本会則は昭和 50 年 5 月 14 日から改正施行する。

本会則は昭和 55 年 6 月 10 日から改正施行する。

本会則は平成 12 年 8 月 9 日から改正施行する。

本会則は平成 16 年 6 月 11 日から改正施行する。

令和3年度 事業概要

I 研究主題と方針

1 研究主題

「きらめく感性 つくりだす喜び
～未来をひらく授業づくり 「深い学び」の探求～」

2 活動方針

- (1) 本年度の研究テーマは「きらめく感性 つくりだす喜び ～未来をひらく授業づくり 「深い学び」の探求～」とする。
- (2) 子どもの心と力をどのように見取っていくかを研究し、示していく。
- (3) 令和5年(2023年)の「関プロ大会」を見据えながら、「未来をひらく授業づくり」につながるような提案、目玉になるような提案を埼玉から発信できるよう準備していく。

II 活動状況

会則に基づき、次の事業を行った。

なお、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの展覧会や会議等が中止や延期、あるいは内容等が変更となった。

- 4月16日(金) 正副連盟長・事務局会議
[ときわ会館]
- 5月12日(水) 役員研修会(常任理事会)
[オンライン]
- 6月11日(金) 総会[書面開催]
- 6月12日(土) 関プロ代表者会議 [オンライン]
- 8月3日(火) 第62回埼玉県造形教育研究大会
授業実践研究会(南部大会)
[オンライン]
- 8月18日(水) 身障者福祉美術展中央審査
[埼玉県障害者交流センター]
- 10月1日(金) 正副連盟長・事務局会議
[中止※オンライン]
[ときわ会館]
- 10月12日(火) 郷土展中央審査
[さいたま市サイデン化学アリーナ]
- 10月30日(土)・10月31日(日)
第63回身障者福祉美術展
[加須市立大利根文化体育館]

- 11月18日(木)～25日(木)
第60回関東甲信越静地区造形教育研究大会静岡大会 [ネット配信]
- 12月25日(土)・12月26日(日)
第56回郷土展中央展
[埼玉県立近代美術館]
- 1月下旬
第62回埼玉県児童生徒美術展
[審査実施・展示中止]
[県下10会場]
- 2月 4日(金) 正副連盟長・事務局会議
[中止※オンライン]
[ときわ会館]
- 2月16日(水) 県美術展第14回中央展審査 [中止]
[埼玉県立近代美術館]
- 2月18日(金) 役員研修会(常任理事会)
[中止※書面開催]
[埼玉県立近代美術館]
- 2月19日(土)～20日(日) 県美術展第14回中央展 [中止]
- 2月20日(日) 県美術展第14回中央展表彰式
[中止]

III 研究

研究テーマ

「きらめく感性 つくりだす喜び
～未来をひらく授業づくり「深い学び」の探求～」
第62回埼玉県造形教育研究大会

(1) 趣旨

造形教育研究大会の「授業実践研究会」では、県美連の研究テーマ(大会テーマ)、及び、追究観点①～③を受け、各分科会の研究の視点にそって提案される各地区の授業実践研究の事例をもとに研究協議を行うことを通して、児童生徒理解を深め、育まれる力を検証するとともに、豊かな授業づくりのための理念や手立てを学び合い、広めることで図工・美術教育の更なる充実を図る。

なお、令和元年度までは2日間の日程で、1日目に「授業実践研究会」、2日目に「創造体験研修会」を実施していた。昨年度は新

型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期。
今年度は1日の日程で「授業実践研究会」のみをオンラインにより実施された。

- (2) 主催 埼玉県美術教育連盟
- (3) 後援 埼玉県教育委員会
さいたま市教育委員会
- (4) 期日 令和3年8月3日(火)

IV 児童生徒美術展の開催

1 第63回身体障害者福祉のための美術展

- (1) 主催 社会福祉法人身体障害者福祉協会
共催 埼玉県美術教育連盟
- (2) 地区審査
県下10地区で地区審査が行われ、入選・特選作品が選ばれた。
なお、審査員の人員削減のため出品数は各学校の学級数とし、学年で1点の特選候補作品を審査会に出品した。
- (3) 中央審査
令和3年8月18日(水)埼玉県障害者交流センターで地方審査特選作品750点の中から、特別賞68点が選ばれた。
- (4) 展覧会期・会場
会期 令和3年10月30日(土)
・10月31日(日)
会場 加須市立大利根文化体育館

2 第56回郷土を描く児童生徒美術展

- (1) 主催 埼玉県
埼玉県校外教育協会
埼玉県教育委員会
埼玉県芸術文化祭実行委員会
共催 さいたま市教育委員会
埼玉縣市町村教育委員会連合会
埼玉県美術教育連盟
- (2) 地区審査
県下10地区で地区審査が行われ、入選作品と特選作品が選出された。
- (3) 中央審査
令和3年10月12日(火)さいたま市サイデン化学アリーナにおいて地区審査で選ばれた特選作品の中から埼玉県知事賞120点が選ば

れた。

- (4) 展覧会期・会場・表彰式
会期 令和3年12月25日(土)
・12月26日(日)
会場 埼玉県立近代美術館
表彰式 11月14日(日)埼玉会館において
知事賞作品は展示され表彰される。
- (5) 備考

埼玉県が誕生して150周年を迎えた年のため、「埼玉県150周年記念事業」および「埼玉県芸術文化祭2021地域文化事業」の一環として「埼玉150周年記念 埼玉未来予想コンクール」を兼ねて実施された。

3 第62回埼玉県小・中学校児童生徒美術展

- (1) 主催
埼玉県教育委員会 埼玉県美術教育連盟
さいたま市教育委員会
埼玉縣市町村教育委員会連合会
- (2) 展覧会期・会場
会期 1月下旬～2月上旬
会場 県下10地区10会場
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

4 第62回埼玉県小・中学校児童生徒美術展 第14回中央展覧会

- (1) 主催
埼玉県教育委員会 埼玉県美術教育連盟
さいたま市教育委員会
埼玉縣市町村教育委員会連合会
- (2) 展覧会期・会場
会期 令和4年2月19日(土)
・2月20日(日)
会場 埼玉県立近代美術館
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。
- (3) 地区審査
各学校から平面1 立体1の特選作品を出品し、特に優れた作品を各地区で選考。
(全県で平面作品50点・立体作品50点)

埼玉県美術教育連盟の足跡を顧みて

1. 昭19年 美術教育研究会発足。
2. 昭22年 埼玉県美術教育連盟発足。
初代連盟長に竹野谷仁重氏、副連盟長に町田源三郎氏就任。
3. 昭24年 埼玉県児童生徒写生コンクール19会場で実施。研究会を行う。
4. 昭25年 児童生徒美術展を教育委員会と共催（岩槻中）。連盟の規約決まる。
5. 昭26年 指導要領講習会。児童生徒美術展。
6. 昭27年 巡回展が県下8ブロックに分かれ開かれる。鑑賞評価の研究会（川越第三小）。
7. 昭30年 中学校研究協議会開催。研究指定校発表会。全国図工教育大会（東京）参加。個人研究発表会。
8. 昭31年 版画実技講習会を開く（埼大）。
9. 昭32年 研究発表会（埼大附小）。身体障害者福祉のための児童生徒美術展開催。
10. 昭33年 美術連盟10周年祝賀会。中学校美術振興対策（時間数各学年2時間の確保）。
11. 昭34年 第1回ゼミナールを長瀬大正亭旭家会場で実施〈図工教育振興のための問題〉。画用紙の研究。
12. 昭35年 第2回ゼミナール開催（大宮市立文化会館）〈絵画・版画・彫塑について〉。
13. 昭36年 第2代連盟長に町田源三郎氏就任。第3回ゼミナール開催（武蔵野荘）〈現場の実践をもとに討議する〉。デザイン工作研究部ができる。
14. 昭37年 第4回ゼミナール開催（熊谷西小）〈指導法を中心に話し合う〉。
全国大会参加（富山）。美連研究指定校（深谷藤沢中）。
15. 昭38年 第1回造形工作指導者研修会（武蔵野荘）。第5回ゼミナール実施（野上青年の家）〈表現を高めるための指導〉。県・美連研究委嘱校発表（大宮東中）。
16. 昭39年 第6回ゼミナール実施（文化会館）〈図工教育の反省—今後のあり方について〉。
17. 昭40年 第7回ゼミナール実施（熊谷福祉センター）〈用具・資料・設備について〉。
美術国際会議に代表参加（東京）。研究委嘱校発表会（蕨東中）。
18. 昭41年 第3代連盟長に斎藤誠氏就任。小・中学校の図工・美術科の基準を定める。
第8回ゼミナール開催（大宮文化会館）。
埼玉身連展（旧美術館）。郷土を描く美術展を新装埼玉会館で開催。全国大会参加（盛岡）。関プロ大会参加（千葉）。
19. 昭42年 第9回ゼミナール（加須青年の家）〈物の見方・感じ方を深め追求する態度を養う指導はどうしたらよいか〉。
全国大会参加（新潟）。
20. 昭43年 第4代連盟長に新井邦雄氏就任。第10回埼玉県造形教育研究大会（武蔵野会館）〈指導上の問題点とその究明〉。全国大会参加（高知）。関プロ大会参加（茨城）。美連研究指定校発表会（杉戸中）。指導者研修会（加須青年の家）。
21. 昭44年 指導者研修会（岩槻青年の家）。全国大会参加（沖縄）。関プロ大会参加（高崎）。研究指定校発表会（古谷小）。第11回埼玉県大会を関プロのリハーサルをかねて開催（埼玉）。
第4回郷土を描く美術展（川越市立月越小）。第11回身障者福祉のための美術展（戸田市東部福祉センター）。第10回県児童生徒美術展（県下9会場）。第32回全国（仙台市）・第19回関プロ（前橋市）への参加。
22. 昭45年 第10回関東甲信越静地区造形教育研究埼玉大会開催（浦和・大宮・川口市）。

- 第12回身障者福祉のための児童生徒美術展（熊谷市民ホール）。全国大会参加（秋田）。文部省・県美連委嘱校図画工作科研究発表会（喜沢小）。郷土を描く美術展（埼玉会館・熊谷市民ホール）。第11回県児童生徒美術展（県下8会場）。
23. 昭46年 深谷班小学校図画工作科研究中間発表会（明戸小）。小学校図画工作科実技研修会（県下10会場）。郷土を描く美術展（県下5会場）。深谷班小学校図画工作科研究発表会（深谷小・桜丘小・岡部小・豊里西小）。新座中学校美術科研究発表会。熊谷西小学校図画工作科研究発表会。第13回埼玉県造形教育研究大会（粕壁小・春日部中・埼玉会館）。第13回身障者福祉のための児童生徒美術展。埼玉県児童生徒美術展。第11回関プロ大会参加（静岡）。
24. 昭47年 第12回関プロ大会参加（甲府）。小中学校図画工作・美術科実技研修会（版画・工作・工芸）。埼玉の美術発行。第25回全国大会東京に参加。郷土を描く美術展開催。第14回埼玉県造形教育研究大会（深谷小・深谷中）。第14回障害者福祉のための美術展。第14回埼玉県児童生徒美術展開催。
25. 昭48年 創立25周年記念研究発表会・祝賀会（武蔵野会館）。図工・美術科実技研修会（デザイン・工作・工芸）。第13回関プロ大会参加（鎌倉）。第8回郷土を描く美術展。第15回身障者福祉のための美術展（加須）。研究委嘱校発表会（大原中・柳瀬中・和光三小）。第15回埼玉県造形教育研究大会（川越）。教材整備状況実態調査。美連ニュース発行（年2回）。第15回県児童生徒美術展。
26. 昭49年 教材実技研修会。第14回関プロ大会参加（松本）。全国大会参加（和歌山）。第16回身障者福祉のための美術展（松山一小）。第9回郷土を描く美術展。第16回埼玉県造形教育研究大会（草加小）。専門部開催（3回）。美連ニュース発行（2回）。第16回県児童生徒美術展。
27. 昭50年 教材実技研究会。第15回関プロ大会参加（宇都宮）。全国大会参加（山形市）。第17回身障者福祉のための美術展（桶川北小）。第10回郷土を描く美術展。第17回埼玉県造形教育研究大会（松山一小・市の川小・松山中）。第17回県児童生徒美術展。
28. 昭51年 第5代連盟長に須藤嘉彦氏就任。研究委嘱校発表（毛呂山川角小・戸田喜沢中・岩槻中）。全国・関プロ大会企画委員会。第18回埼玉県造形教育研究大会（羽生小・羽生中）。身障者福祉のための美術展。郷土を描く美術展。第18回全国大会準備会。
29. 昭52年 研究委嘱校発表会（戸田喜沢中・鴻巣中）。夏季実技講習会（県下16会場）。郷土を描く美術展。身障者福祉のための美術展。第19回県児童生徒美術展。第19回造形大会…全国・関プロ造形プレ大会（埼玉会館・浦和市民会館）。
30. 昭53年 第31回全国造形教育研究・第18回関プロ造形教育研究埼玉大会・第20回埼玉県造形教育研究大会（川口市民会館・埼玉会館ほか）開催。第13回郷土を描く美術展（埼玉会館）。第20回身障者福祉のための美術展（和光第三小）。第19回県児童生徒美術展（県下9会場）。
31. 昭54年 第6代連盟長に高山靖男氏就任。第21回埼玉県造形教育研究大会（杉戸町立杉戸小）。
32. 昭55年 第22回埼玉県造形教育研究大会（本庄市中央公民館）。第15回郷土を描く美術展（羽生市立西中）。第22回身障者福祉のための美術展（熊谷市立新堀小）。第21回県児童生徒美術展（県下9会場）。第33回全国（名古屋市）・第20回関プロ（沼津市）参加。
33. 昭56年 第23回埼玉県造形教育研究大会（皆野町いこいの村）。第16回郷土を描く美術展（大芦小）。第23回身障者福祉のための美術展（東松山市中央公民館）。第22回県児童生徒美術展（県下9会場）。第34回全国・第21回関プロ（長岡市）参加。
34. 昭57年 第24回埼玉県造形教育研究大会（深谷市厚生会館ほか）。第17回郷土を描く美術展（久喜小）。第24回身障者福祉のための美術展（羽生市立西中）。第23回県児童生徒美術展

- (県下9会場)。研究委嘱校発表(蓮田中央小)。第35回全国(武雄市)・第22回関プロ(甲府市)参加。
35. 昭58年 第25回埼玉県造形教育研究大会(飯能市中央公民館)。第18回郷土を描く美術展(戸田郷土博物館)。第25回身障者福祉のための美術展(北本南小)。第24回県児童生徒美術展(県下9会場)。第36回全国(東京都)・第23回関プロ(横浜市)参加。
36. 昭59年 第26回埼玉県造形教育研究大会(北本市文化センター)。第19回郷土を描く美術展(秩父市立南小)。第26回身障者福祉のための美術展(児玉小)。第25回県児童生徒美術展(県下9会場)。第37回全国・第24回関プロ(長野県上山田町)参加。
37. 昭60年 第27回埼玉県造形教育研究大会(東松山市中央公民館)。第20回郷土を描く美術展(寄居小)。第27回身障者福祉のための美術展(所沢小)。第26回県児童生徒美術展(県下9会場)。第38回全国(奈良町)・第25回関プロ(豊島区)参加。
38. 昭61年 第28回埼玉県造形教育研究大会(加須青年の家)。第21回郷土を描く美術展(東松山市立新明小)。第28回身障者福祉のための美術展(杉戸小)。第27回県児童生徒美術展(県下9会場)。研究委嘱校発表(川口在家中)。第39回全国(北海道旭川)・第26回関プロ(桐生市)参加。
39. 昭62年 第7代連盟長に橋本利夫氏就任。第29回埼玉県造形教育研究大会(川口市)。第22回郷土を描く美術展(本庄西小)。第29回身障者福祉のための美術展(秩父尾田蒔小)。第28回県児童生徒美術展(県下9会場)。研究委嘱校発表(浦和市立神田小)。第40回全国・第27回関プロ(千葉市)参加。
40. 昭63年 第30回埼玉県造形教育研究大会(久喜小)。第23回郷土を描く美術展(所沢明峰小)。第30回身障者福祉のための美術展(新座大正小)。研究委嘱校発表(羽生南小)。第29回県児童生徒美術展(県下9会場)。第41回全国(愛媛)・第28回関プロ(上越市)参加。
41. 平成元年 第31回埼玉県造形教育研究大会(本庄市中央公民館ほか)。第24回郷土を描く美術展(加須市市民福祉会館)。第31回身障者福祉のための美術展(深谷小)。第30回県児童生徒美術展(県下9会場)。研究委嘱校発表(上尾西中)。第42回全国(青森)・第29回関プロ(浜松市)参加。
42. 平成2年 第8代連盟長に岡安正治氏就任。研究テーマ「感性を高め創造する力を育む造形教育」のもと、第32回埼玉県造形教育研究大会を第31回関プロ埼玉大会のプレ大会として開催(浦和市文化センターほか)。第25回郷土を描く美術展(上尾コミュニティーセンター)。第32回身障者福祉のための美術展(東松山市立松山第一小)。第31回県児童生徒美術展(県下9会場)。研究委嘱校発表(久喜青葉小)。第43回全国(熊本)・第30回関プロ(水戸市)参加。
43. 平成3年 第31回関東甲信越静地区造形教育研究大会埼玉大会・第33回埼玉県造形教育研究大会を浦和市文化センターを中心として開催。同時に研究委嘱校(浦和田島中・浦和大牧小)発表。第26回郷土を描く美術展(久喜小)。第33回身障者福祉のための美術展。第32回県児童生徒美術展(県下9会場)。第44回全国(東京都)参加。
4 専門部のうち庶務部を事務局に吸収し、研究部・編集部・事業部の3専門部体制とする。
44. 平成4年 第34回埼玉県造形教育研究大会秩父大会(秩父影森小・中)。第27回郷土を描く美術展(朝霞コミュニティーセンター)。第34回身障者福祉のための美術展(JACK大宮)。第33回県児童生徒美術展(県下9会場)。研究委嘱校発表(大宮馬宮東小)。第45回全国(京都)・第32回関プロ(山梨)参加。
45. 平成5年 第9代連盟長に中村善之助氏就任。第35回埼玉県造形教育研究大会大里大会(深谷小

- ・深谷幡羅中ほか)。第28回郷土を描く美術展(秩父西小)。第35回身障者福祉のための美術展(本庄東小)。研究委嘱校発表(所沢中央中)。第34回県児童生徒美術展(県下9会場)。第46回全国(沖縄那覇市)・第33回関プロ(栃木)参加。新研究テーマ検討。
46. 平成6年 第10代連盟長に内田敬氏就任。研究テーマ「子どもの思いや願いが生きる授業を求めて」のもと、第36回埼玉県造形教育研究大会入間地区大会(所沢市文化センターほか)開催。第36回身障者福祉のための美術展(春日部上沖小)。第29回郷土を描く美術展(熊谷石原小)。研究委嘱校発表(蓮田黒浜北小)。第35回県児童生徒美術展(県下9会場)。第47回全国・第34回関プロ神奈川大会(横浜市)参加。
47. 平成7年 第37回埼玉県造形教育研究大会北足立北部大会(上尾市福祉会館、上尾芝川小、上尾南中)開催。第37回身障者福祉のための美術展(坂戸中央公民館)。第30回郷土を描く美術展(小川町立小川小)。研究委嘱校発表(東松山桜山小)。第36回県児童生徒美術展(県下9会場)。第48回全国・第35回関プロ長野大会(飯田市ほか)参加。
48. 平成8年 第11代連盟長に山屋敬典氏就任。第38回埼玉県造形美術研究大会比企大会(東松山市立南活動センター)開催。第38回身障者福祉のための美術展(秩父西小)。第31回郷土を描く美術展(本庄中央小)。研究委嘱校発表(東松山桜山小)。第37回県児童生徒美術展(県下9会場)。第49回全国・第36回関プロ東京大会(中野区ほか)参加。教材開発研修会開催。
49. 平成9年 第39回埼玉県造形教育研究大会北埼玉大会(加須大桑小学校、加須東中学校、加須平成中学校)開催。第39回身障者福祉のための美術展(浦和市立プラザイースト)。第32回郷土を描く美術展(入間市博物館アリット)。研究委嘱校発表(浦和大門小)。第38回埼玉県児童生徒美術展(県下9会場)。第37回関プロ群馬大会(前橋市ほか)参加。教材開発研修会開催(埼玉県立近代美術館)。
50. 平成10年 第40回埼玉県造形教育研究大会埼玉大会(岩槻市立岩槻小学校)開催。第40回身障者福祉のための美術展(熊谷文化創造館)。第33回郷土を描く美術展(行田グリーンアリーナ)。第39回県児童生徒美術展(県下9会場)。第38回関プロ千葉大会参加。教材開発研修会開催(埼玉県立近代美術館ほか)。
51. 平成11年 第12代連盟長に五井修氏就任。第41回埼玉県造形教育研究大会を第52回全国造形教育研究大会・第39回関東甲信越静地区造形教育研究大会をかね、浦和市・大宮市を会場に開催。
第41回身障者福祉のための美術展(東松山市南地区体育館)。第34回郷土を描く美術展(上尾市市民体育館)。第40回県児童生徒美術展(県下9会場)。
52. 平成12年 第13代連盟長に馬場恒安氏就任。第42回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・埼玉県立近代美術館)開催。第42回身障者福祉のための美術展(羽生市民プラザ)。第42回埼玉県造形教育研究大会Ⅱ(本庄中央公民館・市民文化会館)開催。第35回郷土を描く美術展(杉戸町立杉戸小学校)。第41回県児童生徒美術展(県下9会場)。
53. 平成13年 第14代連盟長に三澤文人氏就任。第43回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・羽生市民プラザ)開催。第43回身障者福祉のための美術展(川口リリア)。第43回埼玉県造形教育研究大会Ⅱ(さいたま市立高砂小・うらわ美術館・さいたま市市民会館うらわ)開催。第36回郷土を描く美術展(さいたま市立桜木小)。第42回県児童生徒美術展(県下10会場)。
54. 平成14年 第44回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・横瀬町町民会館)開催。第44回身障者福祉のための美術展(杉戸町立杉戸小学校)。第44回埼玉県造形教育研究大会Ⅱ(狭山市立入間川東小学校・狭山市立市民会館)開催。第37回郷土を描く美術展(深谷市

- 立上柴公民館)。第43回県児童生徒美術展(県下10会場)。
55. 平成15年 第15代連盟長に松本晃氏就任。第45回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・本庄市立旭小学校)開催。第45回身障者福祉のための美術展(上尾市立鴨川小学校)。第45回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(熊谷市立大幡小学校)開催。第38回郷土を描く美術展(羽生コミュニティセンター)。第44回県児童生徒美術展(県下10会場)。
56. 平成16年 第16代連盟長に野澤優氏就任。第46回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・羽生市民プラザ)開催。第46回身障者福祉のための美術展(狭山市立柏原小学校・中学校)。第46回埼玉県造形教育研究大会Ⅱ(春日部市立宮川小学校・豊春中学校)開催。第39回郷土を描く美術展(さいたま市文化センター)。第45回県児童生徒美術展(県下10会場)。
57. 平成17年 第47回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・上尾市文化センター)開催。第47回身障者福祉のための美術展(上里町立上里東小学校)。第47回埼玉県造形教育研究大会Ⅱ(川口市立十二月田小・中学校)。第40回郷土を描く美術展(秩父市吉田取方総合運動公園体育館)。第46回県児童生徒美術展(県下10会場)。
58. 平成18年 第17代連盟長に茅野憲一氏就任。第48回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・川越市やまぶき会館)開催。第48回身障者福祉のための美術展(羽生市羽生市民プラザ)。第48回埼玉県造形教育大会Ⅱ(東松山市立松山第一小・松山中)。第41回郷土を描く美術展(熊谷市彩の国くまがやドーム)。第47回県児童生徒美術展(県下10会場)。
59. 平成19年 埼玉県美術教育連盟発足60周年。第49回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・深谷市民文化会館・深谷小学校)開催。第49回身障者福祉のための美術展(さいたま市うらわ美術館)。第49回埼玉県造形教育研究大会Ⅱ(本庄市立本庄南中学校・北泉小学校)。第42回郷土を描く美術展(久喜市立久喜小学校)。第48回県児童生徒美術展(県下10会場)。埼玉県児童生徒美術展中央展開催。(埼玉県立近代美術館・平面のみ展示。翌年より立体も含め第1回展として開催)。60周年記念会報発行。
60. 平成20年 第18代連盟長に石田拓喜氏就任。第50回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・八潮市メセナ)開催。第50回身障者福祉のための美術展(戸田市文化会館)。第50回埼玉県造形教育研究大会Ⅱ(加須市立加須小学校・加須平成中学校)。第43回郷土を描く美術展(さいたま市文化センター)。第49回県児童生徒美術展(県下10会場)。第1回埼玉県児童生徒美術展中央展開催(埼玉県立近代美術館)。
61. 平成21年 第51回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・さいたま市市民会館うらわ・本太小学校)開催。第51回身障者福祉のための美術展(東松山市民体育館)。第51回埼玉県造形教育研究大会Ⅱ(さいたま市立植竹中学校・大砂土小学校)。第44回郷土を描く美術展(鴻巣市立鴻巣中央小学校)。第50回県児童生徒美術展(県下10会場)。第2回埼玉県児童生徒美術展中央展開催(埼玉県立近代美術館)。
62. 平成22年 第19代連盟長に笠原秀夫氏就任。第52回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・戸田市立芦原小学校)開催。第52回身障者福祉のための美術展(熊谷市彩の国くまがやドーム)。第52回埼玉県造形教育研究大会Ⅱ(鴻巣市立大芦小学校)。第45回郷土を描く美術展(杉戸町立杉戸小学校)。第51回県児童生徒美術展(県下10会場)。第3回埼玉県児童生徒美術展中央展開催(埼玉県立近代美術館)。
63. 平成23年 第53回埼玉県造形教育大会Ⅰ(教材開発・熊谷市立妻沼中央公民館、熊谷市立妻沼東中学校)開催。第53回身体障害者福祉のための美術展(羽生市民プラザ)。第53回埼玉県造形教育研究大会Ⅱ(秩父市立南小学校、秩父市立秩父第二中学校)。第46回郷土を描く美術展(吉見町民体育館)。第52回県児童生徒美術展(県下10会場)。第4回埼玉県児童生徒美術展中央展開催(埼玉県立近代美術館)。

64. 平成24年 第20代連盟長に村上博俊氏就任。第52回関東甲信越静地区造形教育研究大会・第54回埼玉県造形教育研究大会（所沢市所沢市民文化センターミュージズ他）開催。第54回身体障害者福祉のための児童生徒美術展（さいたま市文化センター）。第47回郷土を描く美術展（秩父市吉田取方総合運動公園体育館）。第53回県児童生徒美術展（県下10会場）。第5回県児童生徒美術展中央展（埼玉県立近代美術館）。
65. 平成25年 第55回埼玉県造形教育大会Ⅰ（教材開発・行田市教育文化センター「みらい」）開催。第55回身体障害者福祉のための児童生徒美術展（上尾市立富士見小学校）開催。第55回埼玉県造形教育大会Ⅱ（春日部市立八木崎小学校、春日部中学校）。第48回郷土を描く美術展（プラザノース ノースギャラリー）。第54回県児童生徒美術展（県下10会場）。第6回県児童生徒美術展中央展（うらわ美術館）。
66. 平成26年 第21代連盟長に矢嶋廣明氏就任。第56回埼玉県造形教育大会Ⅰ（教材開発・埼玉大学教育学部附属小学校）開催。第56回身体障害者福祉のための児童生徒美術展（本庄市立本庄東小学校）。第56回埼玉県造形大会Ⅱ（さいたま市立浦和大里小学校）。第49回郷土を描く美術展（川口市立本町小学校）。第55回県児童生徒美術展（県下10会場）。第7回児童生徒美術展中央展（川越市立美術館）。
67. 平成27年 第57回埼玉県造形教育大会（戸田市立芦原小）開催（本年度より大会Ⅰ・Ⅱを一本化）。第57回身体障害者福祉のための児童生徒美術展（県障害者交流センター）。第50回郷土を描く美術展（熊谷市スポーツ文化村 くまびあ体育館）。第56回県児童生徒美術展（県下10会場）。第8回児童生徒美術展中央展（埼玉県立近代美術館）。
68. 平成28年 第22代連盟長に関根隆之氏就任。第58回埼玉県造形教育大会（深谷市上柴公民館）開催。第58回身体障害者福祉のための児童生徒美術展（蓮田市立平野小学校）。第51回郷土を描く美術展（坂戸市総合運動公園小体育館）。第57回県児童生徒美術展（県下10会場）。第9回児童生徒美術展中央展（埼玉県立近代美術館）。
69. 平成29年 第59回埼玉県造形教育研究大会（東松山市高坂小学校）開催。第59回身体障害者福祉のための児童生徒美術展（戸田市文化会館）。第52回郷土を描く美術展（行田市総合体育館：行田グリーンアリーナ）。第58回県児童生徒美術展（県下10会場）。第10回児童生徒美術展中央展（埼玉県立近代美術館）。
71. 平成31年
（令和元年） 第24代連盟長に中川昇次氏就任。第61回埼玉県造形教育研究大会（埼玉大学教育学部附属小学校）開催。第61回身体障害者福祉のための児童生徒美術展（東松山市南地区体育館）。第54回郷土を描く美術展（本庄市立本庄東小学校）。第60回県児童生徒美術展（県下10会場）。第12回児童生徒美術展中央展（埼玉県立近代美術館）。
72. 令和2年 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため埼玉県造形教育研究大会は次年度に延期。身体障害者福祉のための児童生徒美術展は中止、県児童生徒美術展（県下10会場）及び中央展も中止。各地区審査会及び中央審査会は実施。第55回郷土を描く美術展（埼玉県立近代美術館）は開催。
73. 令和3年 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため埼玉県造形教育研究大会はZoomによるオンライン開催。1日の日程でPart1授業実践研究のみ実施。第63回身体障害者福祉のための児童生徒美術展（加須市大利根文化体育館）、第56回郷土を描く美術展兼埼玉150周年記念 埼玉未来予想コンクール（埼玉県近代美術館）は実施。県児童生徒美術展（県下10会場）及び中央展は中止。各地区審査会は実施。